

令和元年度障害者総合福祉推進事業

指定課題番号:22

強度行動障害支援者養成研修の効果的な研修実施のための  
教材開発等に関する研究

《報告書》

令和2年3月

特定非営利活動法人全国地域生活支援ネットワーク

## 目次

1. 事業要旨	……p.2
(1) 事業の目的	
(2) 事業内容及び手法	
(3) 事業の取り組み結果概要	
2. 事業の実施内容および調査等の結果	……p.6
(1) 検討委員会の運営	
(2) 教材開発に関するアンケート・ヒアリングの実施	
(3) 映像資料・スライド教材の作成	
(4) モデル研修の実施による教材の効果測定	
3. 本研究の成果と今後の課題	……p.6
4. 検討委員会等の実施状況	
5. 成果等の公表計画	

## 1. 事業要旨

### (1) 事業の目的

強度行動障害支援者養成研修は、平成 25 年度より「基礎研修」が実施され、平成 26 年度より「実践研修」が実施されている。強度行動障害の状態を有する者への支援について様々なサービスに従事する支援者が学ぶことができるようになったことは、支援現場の支援の質の向上につながると共に、虐待防止にも効果があるという点で、非常に重要な研修体系が整備されたと言える。

平成 30 年度より、当研修を修了することによる加算の対象が生活介護や障害児通所支援、計画相談支援などにも拡大され、様々な支援現場で行動障害に対する理解や適切な支援が実施されていくことが期待されている。しかし一方で、受講対象が広がった分、幅広いサービス類型に従事する支援者が受講することになり、また、支援者の経験年数についても障害福祉に従事したばかりという支援者から数十年の経験がある支援者まで非常に幅広くなっている。

また、受講者の増加を背景として、各都道府県において当研修を実施する事業者も増え、研修の質の担保も今後の課題となっている。

それらを踏まえて、研修内容を様々な属性の受講者がより理解しやすくすると共に、研修内容の均一化を図るために、より効果的な研修の実施方法について工夫をしていくことが必要だと考えられる。そこで、研修内容に沿った教材を開発し、強度行動障害支援者養成研修の効果を高めることを目的として、本研究事業を実施した。

### (2) 事業内容及び手法

#### ① 検討委員会の運営

強度行動障害支援者養成研修の教材を作成するにあたって、同研修や行動障害支援に詳しい有識者で組織する検討委員会を開催し、教材作成の具体的な内容について検討する。

#### ② 教材開発に関するアンケート・ヒアリングの実施

自治体や委託・指定研修事業者に対して、研修実施にあたり工夫が必要な教材についてのアンケートとヒアリングを実施する。

#### ③ 映像資料・スライド教材の作成

検討委員会及びアンケートやヒアリングの内容を基に、教材としての映像資料とスライド教材を作成する。

#### ④ モデル研修の実施による教材の効果測定

作成した教材を使用したモデル研修を実施し、アンケートにおいて教材の効果測定を行う。

### (3) 事業の取り組み結果概要

#### ① 検討委員会における検討結果

全 4 回の検討委員会ならびに、映像資料撮影ワーキンググループ、研修スライド資料・配布資料作成ワーキンググループを委員により組織し、アンケートやヒアリング内容の検討、調査結果の共有、協議、教材作成に係る方針の打ち合わせや作成作業を実施した。

#### ② 教材開発に関するアンケート・ヒアリングの実施

##### ■ アンケートの実施結果

強度行動障害支援者養成研修における効果的な教材の開発について、その根拠となる意見を集めるために、2019 年に国立重度知的障害者総合施設のぞみの園主催で実施された「強度行動障害支援者養成研修(指導者研修)」の受講者及び都道府県庁の強度行動障害支援者養成研修担当者を対象としてアンケートを実施した。アンケートでは、各講義・演習の理解度と併せて、講義・演習で使用する教材(スライド資料、映像資料、ワークシート)について分かりやすさ(受講者目線)と使いやすさ(指導者目線)について評価してもらい、自由記述で具体的な意見を収集した。

アンケートの結果では、理解しやすさに評価がある一方で、スライドにおける内容の量が多すぎる、説明の仕方に工夫が必要、受講者のレベルに合わせる必要があるなどの具体的な課題点も明らかになり、教材の開発(修正)の方向性を明確にすることができた。

##### ■ ヒアリングの実施結果

強度行動障害支援者養成研修における効果的な教材の開発について、アンケートの結果や検討委員会において議論された教材開発の方向性についての仮説を検証し、内容の精度を向上させることを目的に 5 地域 13 か所で検討委員が訪問によるヒアリングを実施した。調査にあたっては、特に、「研修用動画について」「特性確認シートについて」「パワーポイント資料について」「ワークシートについて」「演習グッズについて」の 5 点にポイントを絞って意見聴取を行った。

各調査項目に共通する意見として、初任者向けの研修として位置付けるにあたって、各教材について、現行のものよりシンプルに、分かりやすくする必要がありという意見が多数であることが明らかになった。

#### ③ 映像資料・スライド教材の作成

アンケートやヒアリングで得られた意見を基に、検討委員会で教材づくりの方向性について協議し、映像資料及びスライド資料を作成した。

## ■映像資料の作成

### 【作成した映像資料】

#### ○基礎研修

- 1) 講義「強度行動障害の理解」(6分24秒)
- 2) 講義「障害特性の理解」(5分28秒)
  - ※分割版あり:「社会性の特性」(1分57秒)
  - 「コミュニケーションの特性」(1分48秒)
  - 「想像力の特性」(1分35秒)
- 3) 講義「支援のアイデア」(12分30秒)
  - ※分割版あり:「鈴木さんのアイデア」(1分23秒)
  - 「見え方の工夫」(1分15秒)
  - 「方法の工夫」(3分35秒)
  - 「やりとりの工夫」(1分40秒)
  - 「時間の工夫」(1分39秒)
  - 「場所の工夫」(2分48秒)
- 4) 演習「基本的な情報収集」
  - (1)「田中さんの様子」(4分47秒)
  - (2)「特性ごとの様子」(4分45秒)
    - (2a)「社会性の特性」(1分31秒)
    - (2b)「コミュニケーションの特性」(58秒)
    - (2c)「想像力の特性」(54秒)
    - (2d)「感覚の特性」(1分8秒)
  - (3)「課題となる行動」(2分4秒)
  - (4)「支援後の田中さんの様子」(3分9秒)

#### ○実践研修

- 1) 演習「支援手順書の作成プロセス」
  - (1)「田中さんの様子」(1分56秒)
  - (2)「課題となる行動」(2分27秒)
  - (3)「支援後の田中さんの様子(1)」(1分27秒)
  - (4)「スキル評価」(4分23秒)
  - (5)「支援後の田中さんの様子(2)」(4分28秒)
- 2) 演習「関係機関との連携」(42分1秒)

## ■スライド教材の作成

### 【主な改善点】

- 全体の書式等の統一
- スライド1枚あたりの情報量の整理
- 講義間の重複箇所の整理
- シートとの整合性の整理
- 用語の簡素化

## ④モデル研修の実施による教材の効果測定

新しく開発した教材(スライド、映像、ワークシート)を使用したモデル研修を企画し、全国から強度行動障害支援者養成研修に関わっている受講者を募り、研修受講者を対象としたアンケートを実施して新しい教材の効果について測定した。

アンケート結果においては、講義・演習の理解度が向上していることが判明した半面、修正の必要性についての意見も収集することができ、今後の更なる教材の改善につながる情報を得ることができた。

## 2. 事業の実施内容

### (1) 検討委員会の運営

本研究の実施に当たっては、同研修や強度行動障害支援に詳しい有識者からなる検討委員会を組織し、全4回に亘る会議を開催し、開発する教材の具体的内容についての検討を行った。

#### ■検討委員一覧(50音順)

	氏名	所属
1	大田 優子	特定非営利活動法人生活支援センターわたぼうし
2	大友 愛美	特定非営利活動法人ノーマライゼーションサポートセンターこころりんく東川
3	川西 大吾	株式会社トモニー
4	神田 宏	横浜市発達障害者支援センター
5	竹矢 恒	社会福祉法人同愛会
6	田中 正博	全国手をつなぐ育成会連合会
7	種村 祐太	特定非営利活動法人発達障害サポートセンターピュア
8	豊田 和浩	特定非営利活動法人ゆう
9	服部 敏寛	公益財団法人日本知的障害者福祉協会
10	藤井 亘	特定非営利活動法人みらい
11	本多 公恵	社会福祉法人滝乃川学園
12	山根 和史	社会福祉法人北摂杉の子会

#### ■事業協力者(50音順)

	氏名	所属
1	加藤 潔	国立障害者リハビリテーションセンター
2	日詰 正文	国立重度知的障害者総合施設のぞみの園 事業企画部 研究部
3	村岡 美幸	国立重度知的障害者総合施設のぞみの園 事業企画部 研究部

#### ■事務局(50音順)

	氏名	所属
1	大橋 一之	特定非営利活動法人全国地域生活支援ネットワーク
2	甲斐 千尋	特定非営利活動法人全国地域生活支援ネットワーク
3	古城 亜耶美	特定非営利活動法人全国地域生活支援ネットワーク
4	福島 龍三郎	特定非営利活動法人全国地域生活支援ネットワーク

## (2)教材開発に関するアンケート・ヒアリングの実施

### ①研修受講者アンケート(6～8月)

#### ■目的

現行の研修プログラムにおける参加者の研修理解度及び教材の分かりやすさについて評価を行うことを目的として実施した。

#### ■対象

- ・2019年に国立重度知的障害者総合施設のぞみの園主催で実施された「強度行動障害支援者養成研修(指導者研修)」の受講者
- ・都道府県庁の強度行動障害支援者養成研修担当者

#### ■実施期間

2019年6月24日(月)～2019年8月16日(金)

#### ■回答手段

- ・電子メールまたはFAXによる回答票の返送
- ・webアンケートによる回答

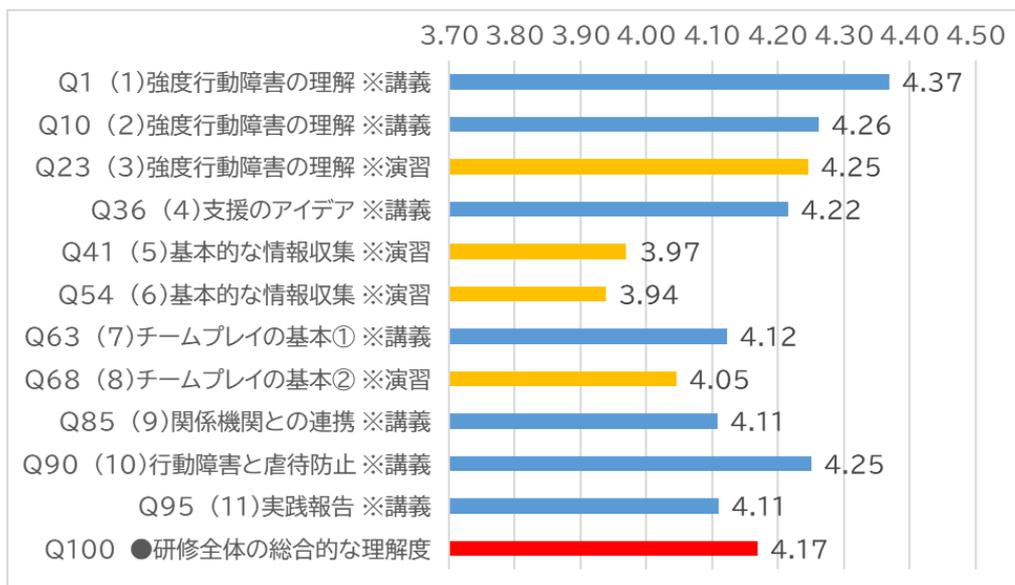
#### ■結果

- ・基礎研修アンケート 回答数:67件(回答票返送54件、webによる回答13件)
- ・実践研修アンケート 回答数:72件(回答票返送59件、webによる回答13件)
- ・都道府県庁研修担当者 回答数:25件(回答票返送25件)

### 1)研修の全体的な理解度

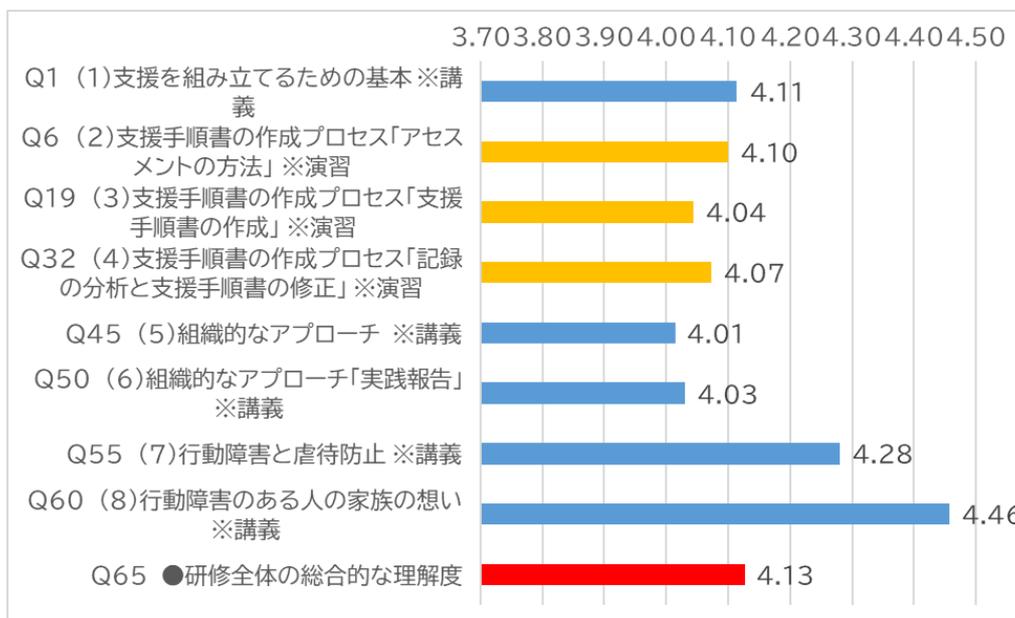
基礎研修・実践研修それぞれの講義・演習項目について、「1.全く分からない」「2.やや分からない」「3.普通」「4.まあ分かった」「5.かなり分かった」の5段階で理解度を尋ねたところ、下記のような回答が得られた。

### 【基礎研修】



全体の総合的な理解度は 4.17 と概ね好評であった。全体的に、演習メニューについての理解度が低めの傾向が見られている。新カリキュラムにおいては実践研修にて扱う内容となっている「関係機関との連携」の理解度は 4.11 となっている。

### 【実践研修】



全体の理解度は 4.13 と概ね良好であった。新カリキュラムでは基礎研修にて取り扱うこととなっている「行動障害のある人の家族の想い」は理解度 4.46 と、特に高い理解度となっている。

## 2)教材の分かりやすさ(受講生視点)・使いやすさ(講師視点)に対する評価

各研修の講義・演習のスライド資料・映像資料・ワークシートについて、それぞれ「1.分かりにくい」「2.やや分かりにくい」「3.普通」「4.まあ分かりやすかった」「5.かなり分かりやすかった」の5段階で尋ねたところ、次の通り回答が得られた。

### 【基礎研修】

ア)強度行動障害の理解「強度行動障害の状態」「行動障害が起きる理由」「支援の基本的な考え方」(講義)



主な意見(自由回答抜粋)

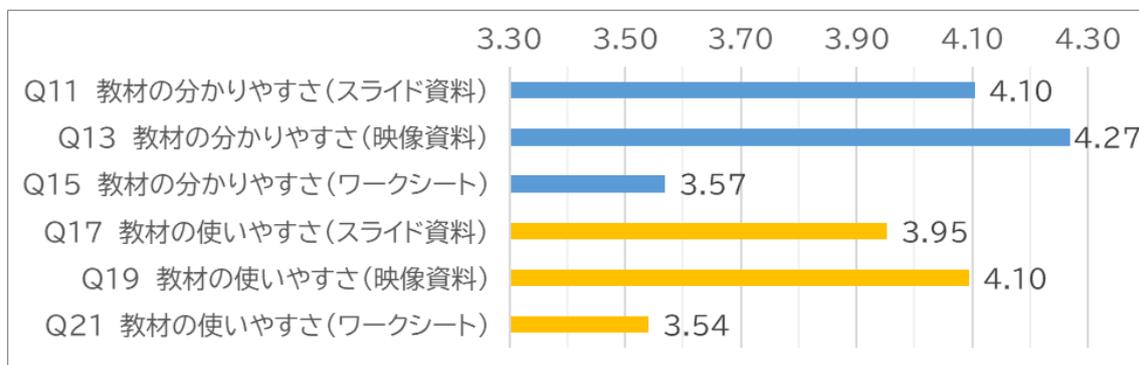
《スライド資料》

- 目的が的確にまとまっている
- 絵や図があり分かりやすい
- 映像とリンクしているのでイメージしやすい
- △やや文字が多い
- △シンプルなため講師の技量に左右される
- △初任には強度行動障害という名称の説明を入れたほうが良い

《映像資料》\*使用教材「強度行動障害支援者用映像資料(DVD)」

- 状態像を目で見て理解しやすい
- 解説がついて見やすい
- 印象がハードすぎず良い
- △初任の場合「大変」としか感じない可能性もある

イ)強度行動障害の理解「障害特性の理解」(講義)



主な意見(自由回答抜粋)

《スライド資料》

○特性確認シートと連動していて良い ○ポイントがまとめられている

○なぜ特性理解が必要か明記されていて良い

△ボリュームが多く想定時間内に収まるか不安 △この段階で特性シートと冰山モデルに繋げていくのが難しい

△0年0ヶ月の人には情報量が多いかもしれない

《映像資料》\*使用教材「自閉症の子どもたち(DVD)」

○映像だと自閉症の特性を整理・理解しやすい ○特性の説明が文字になっているので理解しやすい

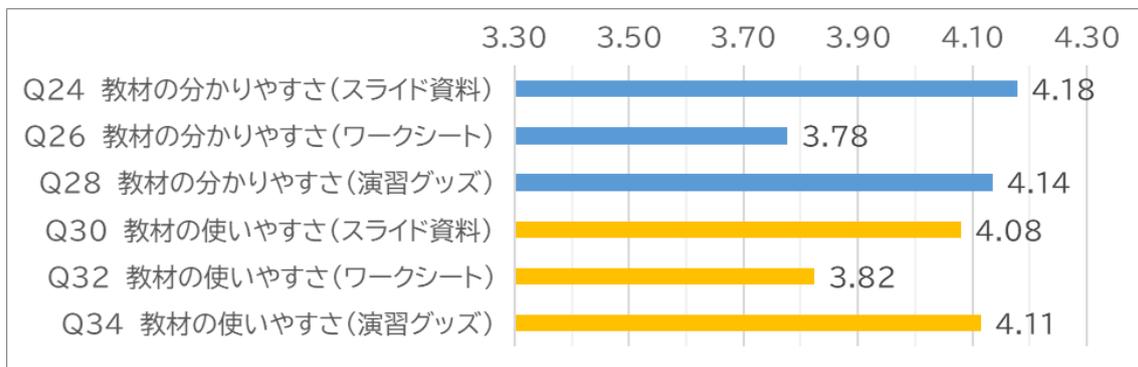
○テーマごとにチャプターがあるので便利

△講義の説明がしやすい映像資料がほしい △30分の映像は長い

△支援も進歩しているので映像が古すぎるのではないかな

《ワークシート》\*使用教材「特性確認シート」

#### ウ)強度行動障害の理解「困っていることの体験」(演習)



主な意見(自由回答抜粋)

《スライド資料》

○学ぶべき点が説明されていて目的に沿って学習できる ○特性を体験できるプログラムが良い

○時間配分、見通しが付きやすい

△項目が多く、こなしていく印象 △進行のスキルがかなり問われる △特性確認シートとリンクがしづらい

《ワークシート(特性確認シートを除く)》

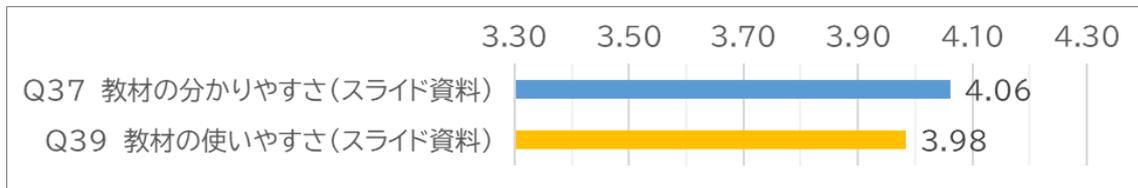
△話し合いメモをもう少し具体的にしても良かった

《演習グッズ》

○簡単に用意できるグッズなので良い ○ローコストで準備しやすい

△自分のものを他人に触られるのには抵抗あり

## エ) 支援のアイデア(講義)

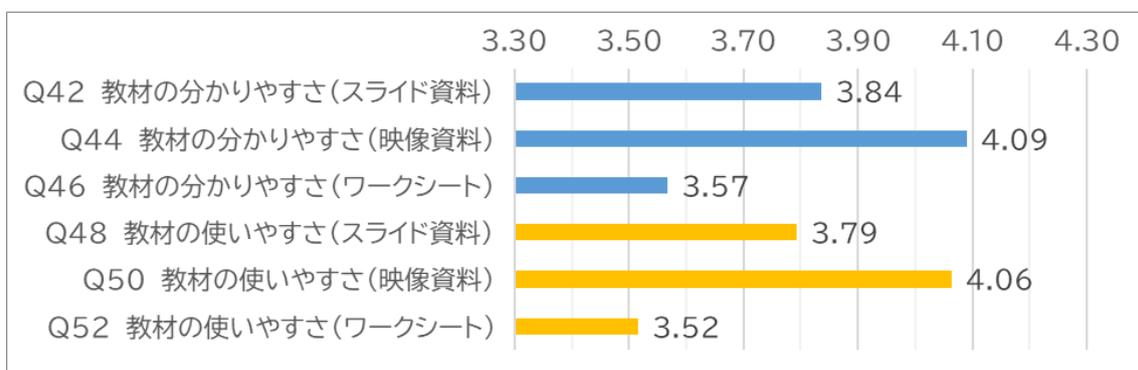


主な意見(自由回答抜粋)

《スライド資料》

- アイデアのポイントが明確    ○具体事例や映像で示され分かりやすかった    ○課題別にまとめられていた  
 △映像の準備が一番の課題    △支援の道筋が図解になるとわかりやすい

## オ) 基本的な情報収集(演習)



主な意見(自由回答抜粋)

《スライド資料》

- ポイントが明確で丁寧    ○行動を観る視点の整理などわかりやすかった    ○ポイントの順を追って説明できる  
 △特性確認シートの整理が大変    △説明のストーリーが必要  
 △専門性を志向していない人に理解させるのは困難

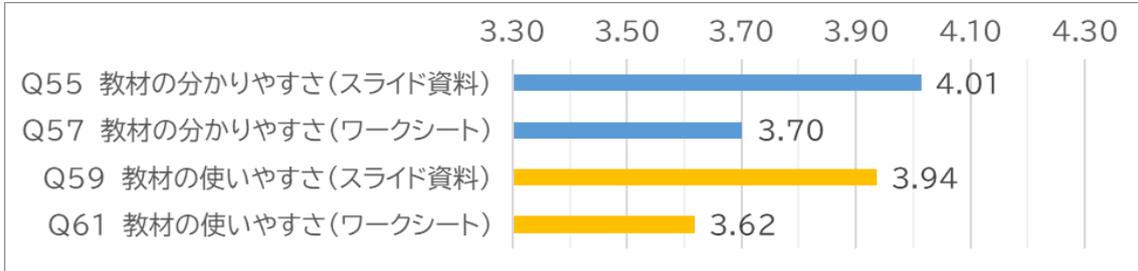
《映像資料》\*使用教材「自閉症の子どもたち(DVD)」

- 課題となっている行動をとらえやすい映像    ○初心者には優しい映像  
 ○同じ映像を使用するためつながりで考えやすい  
 △Kくんの場面のみピックアップする難しさ

《ワークシート(特性確認シートを除く)》

- \*使用教材:「個人作業①行動問題性の定義シート(A4)」「個人ワーク用特性確認シート(A3)」「解答例」  
 ○特性シートと冰山モデルがリンクしてあり良い  
 △丁寧に説明する必要がある

カ) 基本的な情報収集(演習)



主な意見(自由回答抜粋)

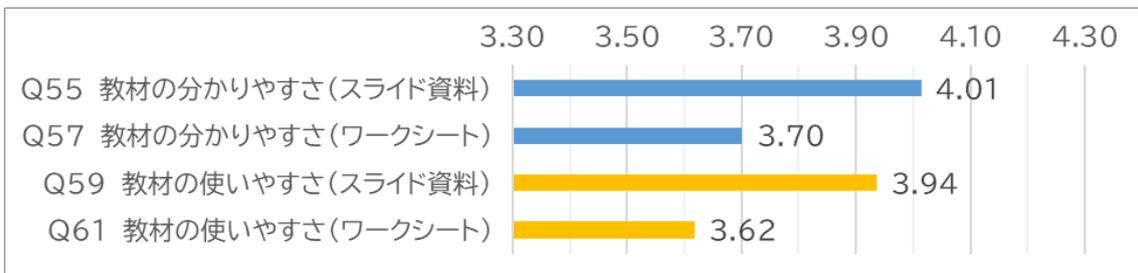
《スライド資料》

- イメージしやすい ○フレームワークのためにかなり分かりやすくなっている
- 簡素にまとめられていて見やすさがある
- △スライドの数が多い

《ワークシート(特性確認シートを除く)》

- \*使用教材:「冰山モデルシート(A4)」「困りごと整理シート(A4)」「グループワーク用冰山モデルシート(A3)」「グループワーク用困りごと整理シート(A3)」
- 困りごとシートがあると利用者の視点に立って考えられる優しい支援ができる
- △障害特性シートと冰山モデルシートが上手くリンクしないところがある

キ) チームプレイの基本①(講義)

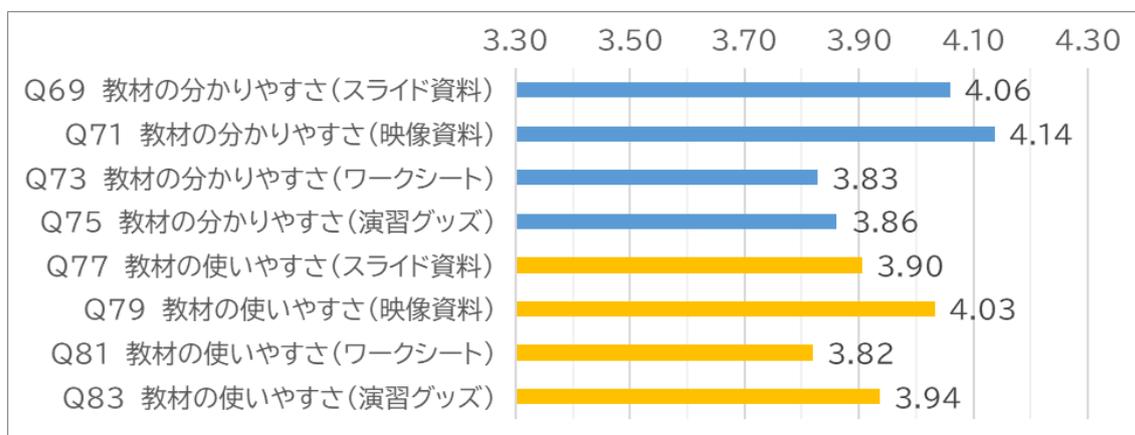


主な意見(自由回答抜粋)

《スライド資料》

- 理解しやすかった ○支援手順書の必要性がわかる ○具体例をもとに進めることができるので、話しやすそう
- △支援手順書の必要性和本人の手順書が混同してしまう

## ク)チームプレイの基本②(演習)



主な意見(自由回答抜粋)

《スライド資料》

- ルールプレイの手順などわかりやすい
- 最初に流れと目的を説明する必要がある
- 時間設定が課題
- △やることは分かるが意図が見えにくい
- △まとめをきちんと押さえておかないともったいない

《映像資料》

- ルールプレイをイメージしやすかった
- △ルールプレイに引っ張られて本来の手順書についての理解が難しい
- △形式化してしまう

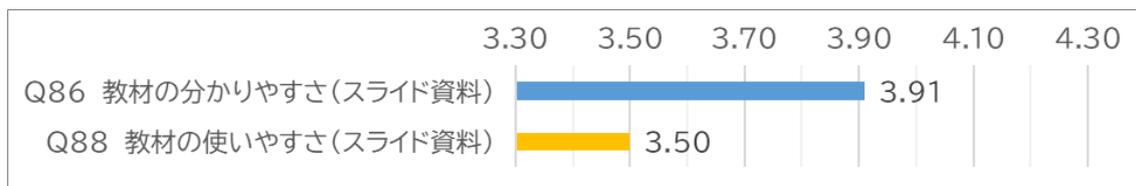
《ワークシート》

- \*使用教材:「ジュース買い物支援手順書(A4)」「Kさんの動き(A4)」「ルールプレイチェックシート(A4)」「グループワーク用振り返りシート(A3)」
- 手順の確認や振り返りをしやすい
- △ルールプレイから記録への記入が難しい

《演習グッズ》

- シンプルでわかりやすかった
- 準備が容易で使いやすい
- 支援者役がセッティングからやると手順書の意味が伝わりやすい
- △自閉症の方を支援したことがないと当事者を演じるのは難しい

## ケ)関係機関との連携(講義)



主な意見(自由回答抜粋)

《スライド資料》

○ポイントが示されている ○様々なデータ等が示されており分かりやすかった

△0年0ヶ月の受講者を対象とすると医療に関する知識について難しすぎるスライドもある

△医療だけでなく教育や行政との協力関係を取り上げるべきではないか △都道府県によりバラつきは出る

## コ)行動障害と虐待防止(講義)



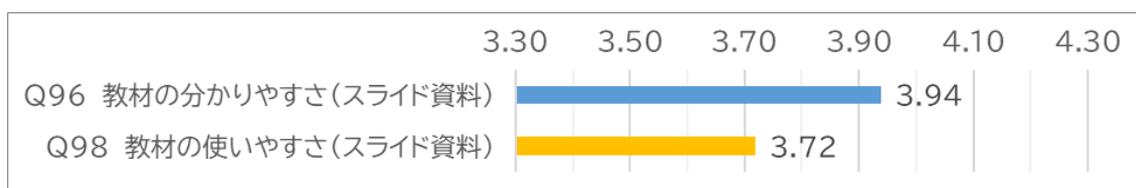
主な意見(自由回答抜粋)

《スライド資料》

○重たい内容を軽く伝えられると話が入りやすい ○例示もあり使いやすい ○内容、ボリュームともに適切

△基本報酬の減算などは受講者にはわかりにくい △講師の話し方でかなり左右される

## サ)実践報告(講義)



主な意見(自由回答抜粋)

《スライド資料》

○失敗も含めて支援現場のリアルな視点やアイデアが入っていてとても聞きやすく役立った

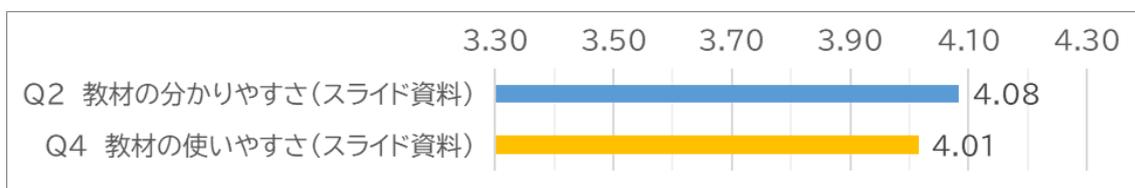
○細部にわたる例示での説明が良い ○事例を通して支援の方法が理解できる

○写真なども多用してあり分かりやすかった

△各県で依頼する実践報告による

## 【実践研修】

### シ) 支援を組み立てるための基本(講義)

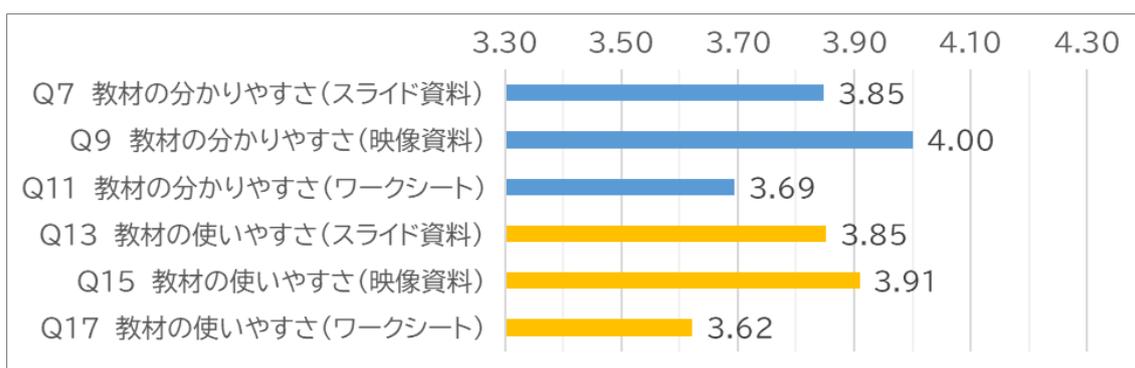


主な意見(自由回答抜粋)

《スライド資料》

- 基礎の振り返りができて良い ○基礎研修と実践研修の違いがはっきりと記載されている
- ストーリーがあり、分かりやすい ○支援において非常に重要な部分を分かりやすく書いてある
- 具体例を挙げているため分かりやすい ○図やイラストが多く使われており、重要なポイントが分かりやすかった
- △時間内に終わらせることができるか心配 △1時間の枠として量の多さが気になる

### ス) 支援手順書の作成プロセス「アセスメントの方法」(演習)



主な意見(自由回答抜粋)

《スライド資料》

- 演習のポイントが明確で時間管理もしやすい ○進行手順になっているため進めやすい
- 自分のやる事が細かく書いてあるのでわかりやすい
- △社会参加の項目は入れておいた方が良いのでは △講義(説明)が多く感じた △少し内容が難しかった
- △作業が細かすぎる気がする △統一した支援の必要性をもっと伝えられたらよい

《映像資料》\*使用教材「「STさんハンバーガーショップへ行く」(DVD)」

- STさんの支援前の映像を見ると色々と問題点が見えてきて良い ○場面を絞ることで課題を限定できた
- 着目のポイントを伝えやすい ○映像と資料がリンクしていた
- △映像に説明の言葉の表示がほしかった △新人の方はどこに注目していいかわからないかも
- △DVDを止めるタイミングに悩む気がする △説明を要所所所に入れるとなると、用意する映像の工夫が必要

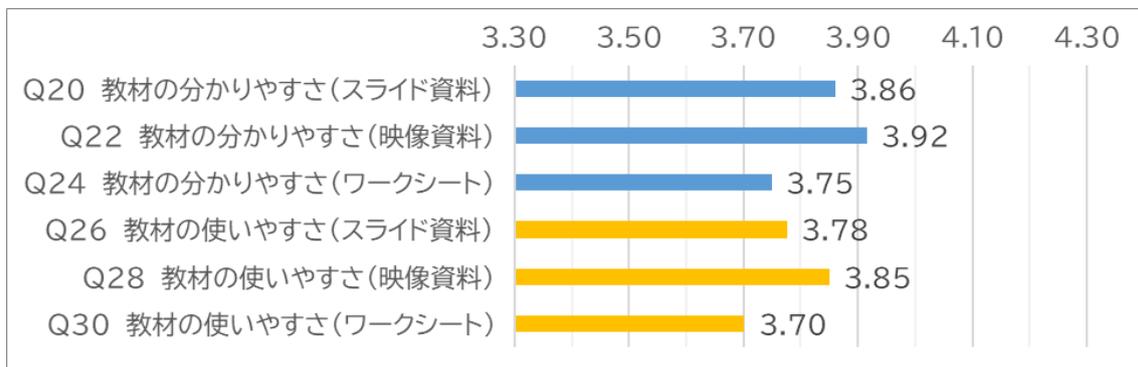
《ワークシート(特性確認シートを除く)》

\*使用教材:「ST さん基本情報シート(A4)」「特性確認シート(A3)」「個人ワーク用特性確認シート(A3)」「グループワーク用特性確認シート(A3)」「ST さん特性確認シート(A3)」「冰山モデルシート(A4)」「個人ワーク用冰山モデルシート(A4)」「グループワーク冰山モデルシート(A3)」

○基礎研修で使っていたものを使用しているのでスムーズに始めることができた

△講師によって説明の違いがあり混乱した

### セ) 支援手順書の作成プロセス「支援手順書の作成」(演習)



主な意見(自由回答抜粋)

《スライド資料》

○特性確認シート、冰山モデル、支援手順書の関連性と必要性がよく理解できる

△冰山モデルの部分は分かりやすいが、そこから支援手順書を考えると消化不良になりがちだった

△シンプルで見やすいが、口頭での説明が多くなる点が心配

《映像資料》

○研修用として編集されていてアセスメントも取りやすい ○同じ方の映像を活用するのでイメージを持ちやすい

○場面を絞って繰り返し確認できたので良かった

△映像では分かりにくい点もあるので補足説明が必要

《ワークシート(特性確認シートを除く)》

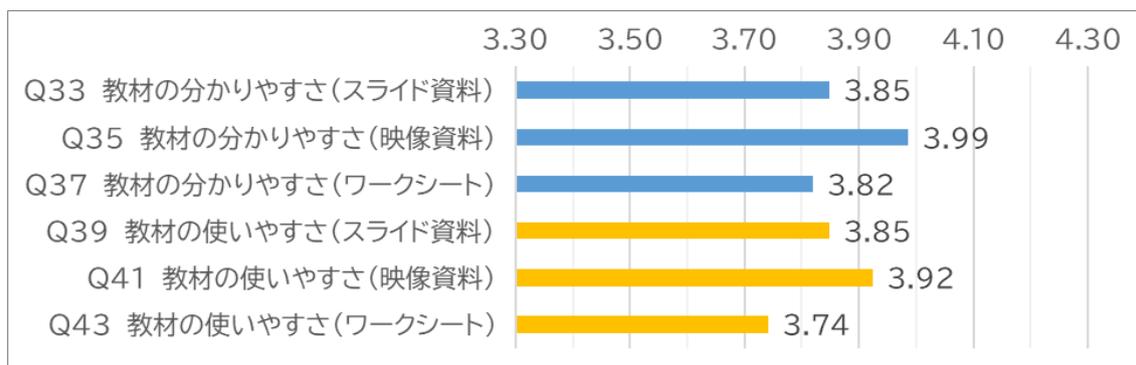
\*使用教材:「個人ワーク用支援手順書(A4)」「グループワーク用支援手順書(A3)」「行動記録用紙(A4)」「ストラテジーシート(A4)」「AH さん行動記録用紙(A4)」「AH さん支援手順書(A4)」

○支援手順書兼記録用紙はとても分かりやすい ○自分でシートを作り、グループで話し合うことが有効

○特性シートを利用して手順書を作成していく過程が分かりやすかった

△ストラテジーシートなどもう少し時間をかけて説明してほしい

## ソ) 支援手順書の作成プロセス「記録の分析と支援手順書の修正」(演習)



主な意見(自由回答抜粋)

《スライド資料》

- 評価のポイントや修正の際の注意点なども具体的に書かれていて良い
- 教材の通りに進行するのでスライドにも注目できる ○修正の仕方や皆で考えることの重要性があり良い
- ワークの前に視点がしっかり示され、ワークに入りやすい
- シンプルで分かりやすい(細かい補足情報は講師がアナウンスすればよい)
- △説明はしやすいが、手順の修正のバリエーションの補足は必要

《映像資料》

- 前の事例の引き続きなので入りやすかった ○同じ映像を観るので理解を深めやすい
- △映像のみでは分かりづらい場面・状況があった △展開が早いので受講者の理解度に応じて助言は必要

《ワークシート》

- \*使用教材:「個人ワーク用 ST さん支援手順書(A4)」 「グループワーク用 ST さん支援手順書(A3)」 「グループワーク用支援の振り返りシート(A3)」 「グループワーク用 ST さん支援手順書修正用(A3)」
- 区分が明確で利用しやすい
- △振り返りシートは十分に理解できなかった △振り分けにくく、やや分かりにくい

## タ) 組織的なアプローチ(講義)



主な意見(自由回答抜粋)

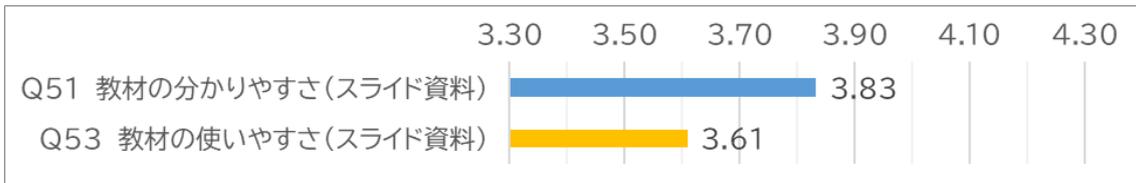
◀スライド資料▶

○管理者向けに非常に分かりやすく記載されている ○ポイントがまとめられていて理解しやすい

○表や数値化されていたため、分かりやすかった

△経験年数が少ない方には難しいと感じる

#### チ) 組織的なアプローチ「実践報告」(講義)



主な意見(自由回答抜粋)

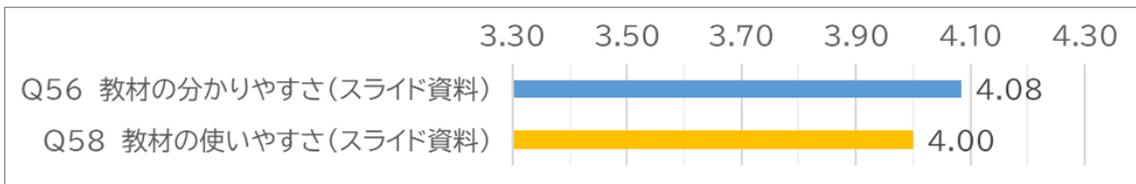
◀スライド資料▶

○研修内容の流れに沿った事例となっており、振り返りができた

○具体的な事例を見ることで、組織としての動き方や連携が分かりやすかった

△基礎研修の実践報告との差が分かりづらかった

#### ツ) 行動障害と虐待防止(講義)



主な意見(自由回答抜粋)

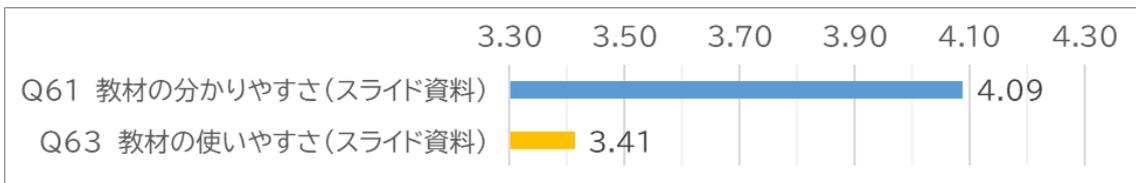
◀スライド資料▶

○チェックリストなどを用いて基礎研修の内容とは区別されていた ○演習を入れることで、より伝えることができる

○講義を聴くだけでなくグループワークを取り入れるのが良かった

△県で実施する場合、講義部分をもう少し時間を取る必要があると感じた

#### テ) 行動障害のある人の家族の想い(講義)



主な意見(自由回答抜粋)

《スライド資料》

- 家族の想いがダイレクトに伝わり分かりやすかった ○研修最後に、心に落ちる話が聴けて良かった
- 写真画像等で説明されていたのでイメージが付きやすかった
- それぞれの都道府県での資料見本になる内容を感じる

### 3)特性確認シートに関するアンケート自由意見(抜粋)

基礎研修・実践研修それぞれにおいて研修期間を通して使用する頻度の多い「特性確認シート」については、次のような意見が見られた。

#### 【基礎研修】

- 行動をみる視点と特性から見る視点の整理ができた ○特性シートと冰山モデルがリンクしており良い
- 細かく丁寧にシートへの転記の仕方があって良い ○ワークシート同士の使い方が良い
- △わかりやすいが練習は必要 △初めての人には難しい △丁寧に説明する必要がある
- △使い方が分からないと、全く進まない恐れがある △情報量が多すぎて使いにくい。もう少し簡略化してほしい
- △ボリュームが多いため時間を要して理解する必要あり △複雑で使いこなすように教えることは難しい
- △十分な説明ができないと受講者には理解してもらえない

#### 【実践研修】

- 基礎研修で使っているものを使用するのでスムーズ ○手順を理解するには良い
- △文字が細かく、情報を読み取るのに時間がかかる △説明の仕方が難しい △情報量が多い
- △根拠に基づいた支援をするうえで活用できるが、十分に理解していない

### 4)まとめ・考察

2019 年度強度行動障害支援者養成研修(指導者研修)の理解度については概ね良好であり、教材についても評価できる意見も見られたが、主に以下の点について改善の必要性が明確になった。

#### ■スライド資料

各講義・演習ごとに文字量や情報量が違っており、特にスライドにおける文字量や情報量の多い資料については整理してシンプルにする必要がある。また、ワークシートとの整合性が取れていないスライドに対する指摘もあり、スライド資料の内容をワークシートと整合性が取れるように修正しなくてはならない。

## ■映像資料

演習で使用する映像について、市販の映像資料を使うことで演習に必要な部分のみを取り出すことの不便さや、初任の受講者には本人の映像において行動のどこに注目していいか分かりにくいということ、映像自体が古くなっていることについての指摘があり、研修に特化したわかりやすい映像を作成する必要がある。

## ■ワークシート

全体的に分かりやすさ、使いやすさの両方で評価が低い傾向にあり、その要因は研修の中で一貫して使用している「特性確認シート」の分かりにくさ、使いにくさにあると思われる。「特性確認シート」の目的や内容自体については、支援を考える上で欠かせない行動や特性を見る視点をフレームワークで整理することができるという点で評価されているが、シートにおける情報量や文字量の多さ、初任の受講者を想定した時の難解さに対する指摘があり、シートの目的を維持しながら、よりシンプルでわかりやすい内容にしていく必要がある。

## ②研修実施者ヒアリング

### ■目的

強度行動障害支援者養成研修における教材の見直しについて、検討委員会において議論された教材開発の方向性についての仮説を検証し、内容の精度を向上させることを目的に実施した。

### ■方法

研修を実施している事業者へ、検討委員が訪問によるヒアリング調査を実施した。

ヒアリング調査にあたっては、特に、「研修用動画について」「特性確認シートについて」「パワーポイント資料について」「ワークシートについて」「演習グッズについて」の5点にポイントを絞って意見聴取を行った。

### ■対象

合計5地域13か所の実施事業者のヒアリングを実施した。

都道府県	対象	訪問日程
A 県	公益財団法人	2019年11月12日
B 県	社会福祉法人(2件) 特定非営利活動法人(1件)	2019年9月19日、20日 2019年10月1日
C 県	社会福祉法人(4件)	2019年9月27日
D 県	公立厚生福祉センター	2019年9月19日
E 県	社会福祉法人(4件)	2019年9月30日

## ■結果

### 1) 研修用動画に関する意見

#### ○初任者向け映像のニーズ

基礎研修については、特に初任者向けであることを意識した内容の易化が求められていることがヒアリングから明らかになった。とりわけ、初任者向けには、演習において行動特性を観察し見出す作業や、演習用ワークシートと連動させて学習することについて、難易度が高いのではないかという意見があった。

改良の方向性としてのアイデアには、「同一人物が登場するストーリー性のある構成」にして、理解を補助することや、「支援のアイデア」で学んだ内容が活用されていることがわかるような内容とすること、支援前と支援後の変化が分かりやすく伝わるものとするなどが挙げられた。

#### ○再構造化について学習できる視点の重要性

実践研修で使用する映像については、継続的な支援アプローチの観点から、支援の試行、評価、修正、の PDCA サイクルを追って理解できる構成であることを重視する意見があった。特に、再構造化への取り組みについて映像を見ながら学べることについては、高い評価があった。

### 2) 特性確認シートに関する意見

#### ○簡潔なシートによる理解度の向上や実践への架橋の強化

特性確認シートについては、強度行動障害に対する支援力を高める観点では、網羅的である点について高く評価されている一方で、初任者向けを想定した場合には「情報量が多い」との声が非常に多くあった。講義中に読み込むにも時間がかかり、使い方や内容の説明も必要だとの意見が見られた。

現行のシートはそのまま資料として有用性があるが、演習用としてより簡潔な、使いやすいシートを作成することで、受講者がそれぞれの支援現場でもチームに説明・共有して活かしやすい、「使いこなせる」シートにできる可能性があることが示唆された。

### 3) パワーポイント資料に関する意見

#### ○1枚あたりの情報量の整理や、書式の統一

「情報量が多い」との意見がパワーポイント資料についても寄せられた。1枚あたりの情報量をより絞って、伝えるポイントを明らかにした資料作成が望まれている。特に大人数、大会場での研修実施においては、文字の大きさ、色、フォント形式についても、見えやすさに配慮した内容で統一することが重要であるとされる。

#### ○メモ機能を活用した講義担当者へのフォロー

各地域で質の担保された研修を実施することを期すにあたっては、講師の経験や力量により大きく左右されることを避けるため、講義で必ず伝えるべき重要部分について、パワーポイントのメモ機能を活用して講義担当者が講義中に伝えるポイントを参照できるような工夫を施すことが望ましいとの意見があった。

#### 4) ワークシートに関する意見

##### ○支援現場で活用しやすいシンプルなシートのニーズ

現行のシート構成は、枚数が多い一方で、講義内で十分な内容説明の時間を取ることも難しく、結果として混乱してしまう受講生もいるとの意見が寄せられた。一つ一つのシートの使い方を理解するのも重要である一方、支援現場における実践への反映を優先するのであれば、よりシンプルな構成のものが望まれる。研修実施事業者側においても、シートの枚数が多いことで準備や配布の煩雑さが生まれている場面もあるとのことだった。

##### ○意図や使い方の丁寧な説明

支援現場で実際に活用されるシートとするには、シートそれ自体が簡潔な内容であるとともに、研修の中で、ただシートを埋める作業とならないよう「なぜこのシートを活用するのか」という演習の目的・意図や、シートの機能や活用が有用な場面等について、講師から説明があることも必要であるとの意見があった。使い方、という点では、記入例があることや、答え合わせをして間違った理解のままでは終わらせないことも重要であるとの意見もあった。また、個人のワークシート記入作業の後、グループワークでワークシートを示し合わせる、という研修進行との関係上、個人のワークシート記入で学習が深まらないままだと、後のグループワークにおける学習効果にも大きな影響を与える場合がある。個人ワークの段階で、適切な方法でシート記入できるような説明、誘導が求められる。

#### 5) 演習グッズに関する意見

##### ○演習準備の負担軽減

演習の準備等に関しては、準備や受講生への配布が煩雑にならないような配慮が求められていた。特に基礎研修初日の「本人が困っていることの疑似体験」について、準備リストなど、細やかな配慮が研修実施において必要とされている。また、疑似体験については、その意図を適切に受講生に理解してもらえらるような誘導や、伝え方において難しさを感じることもある、という意見も見られた。

## 6)その他

- ・現状の研修は、情報量の多さ、内容の高度さから、全体として難易度の高い研修となっているため、「0年0か月」の初任者を想定した場合に、やはり内容の易化や情報量の整理の要請は大きい。各受講者に対して、研修の到達目標やレベル感を最初に明確に示しておいて見通しを持たせることも工夫の一つとして重要であるとの意見もあった。
- ・また、受講をきっかけに受講者が支援の質の向上に関心を持ち、今後の学びのモチベーションを持つことも、受講者の所属事業所と研修実施事業者の双方が研修に対して期待する機能として重視すべき、との意見からは、研修全体の統一感や伝え方の工夫、モチベーション向上の仕掛けなども研修実施者に求められる。
- ・研修にストーリー性をもたせるという観点からは、特に地方開催の研修において、講義を担当する医療者の日程調整が困難であるがゆえにプログラムの順番の変更が生じやすいという現状がある。このような背景から、医療連携に関する講義は、全国統一の映像講義が必要との声があった。
- ・ヒアリングにおいては、フォローアップ研修のニーズについても意見があった。現場での実践力を高めるために、研修後の振り返りを持つことや、事業所間の情報交換の場を設けて各事業所で使用されている手順書や支援のアイデアについて共有していくことなどについて、要望があった。

### (3)映像資料・スライド教材の作成

検討委員会及びアンケートやヒアリングの内容を基に、教材としての映像資料の開発とスライド教材の作成を実施した。(活動内容については「検討委員会等の実施状況」に記載。)

#### ■映像資料撮影ワーキンググループ

	氏名	所属
1	大友 愛美	特定非営利活動法人ノーマライゼーションサポートセンターこころりんく東川
2	神田 宏	横浜市発達障害者支援センター
3	山根 和史	社会福祉法人北摂杉の子会
4	福島 龍三郎	特定非営利活動法人全国地域生活支援ネットワーク(事務局)

#### ■研修スライド資料・配布資料作成ワーキンググループ

	氏名	所属
1	大友 愛美	特定非営利活動法人ノーマライゼーションサポートセンターこころりんく東川
2	加藤 潔	国立障害者リハビリテーションセンター
3	川西 大吾	株式会社トモニー
4	神田 宏	横浜市発達障害者支援センター
5	竹矢 恒	社会福祉法人同愛会
6	藤井 亘	特定非営利活動法人みらい
7	本多 公恵	社会福祉法人滝乃川学園
8	山根 和史	社会福祉法人北摂杉の子会
9	福島 龍三郎	特定非営利活動法人全国地域生活支援ネットワーク(事務局)

#### ■教材づくりの方向性

アンケートの教材の使いやすさに関する回答理由(自由記述)の内容や、ヒアリングの内容を次の通り整理し、教材づくりの方向性を整理した。

【基礎研修】

時間	プログラム	形態	教材づくりの方向性
60	強度行動障害の理解 ①-強度行動障害の状態 ②-行動障害が起きる理由 ③-支援の基本的な考え方	講義 映像	○基本的に同じ内容・スライドとする ○口頭での説明をスライド化（もしくはノート記入）する ○内容のボリュームについて検討する ○「強度行動障害」という名称の説明を追加 ○映像は同じものを使用するか、新しい映像を使用するか検討する
60	強度行動障害の理解 ⑤-障害特性の理解	講義 映像	○基本的に同じ内容・スライドとする ○特性確認シートの修正内容と整合性を取る ○内容のボリュームについて検討する ○シートの説明を検討する ○三つ組みで説明するか、7つの特性で説明するか検討する ○新しい映像を使用する ○新しい映像との整合性を取る
120	強度行動障害の理解 ④-困っていることの体験	演習	○特性を体験するプログラムは継続する ○体験数、内容を検討する ○特性確認シートとのリンク方法を検討する ○話し合いメモの内容を検討する ○個人のものを使わない方法を検討する
60	支援のアイデア ①-1 障害特性に基づいた支援 ①-2-障害特性に基づいた支援 <好事例紹介>	講義 映像	○基本的に同じ内容・スライドとする ○映像・画像の提供（好事例紹介）について検討する
60	基本的な情報収集 ①-1 行動を見る視点 ①-2 行動を見る視点 <モデル事例>	講義 映像	○基本的に同じ内容・スライドとする ○特性確認シートの修正内容と整合性を取る ○説明の流れを検討する ○内容の難易度を検討する ○シートの説明の仕方を検討する ○新しい映像を使用する ○新しい映像との整合性を取る
120	基本的な情報収集	演習	

	②-行動を記録する体験		<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的に同じ内容・スライドとする</li> <li>○スライドの量の検討をする</li> <li>○シートの説明の仕方を検討する</li> </ul>
60	<p>チームプレイの基本</p> <p>①-チームプレイの必要性</p>	講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的に同じ内容・スライドとする</li> <li>○スライドの内容について検討する</li> </ul>
60	<p>チームプレイの基本</p> <p>②-支援手順書に基づく支援の体験</p>	演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ロールプレイは継続して実施する</li> <li>○演習の目的や意図を明確に説明する</li> <li>○形式化しない方法を検討する</li> <li>○記録用紙の内容を検討する</li> </ul>
60	<p>関係機関との連携</p> <p>①-福祉と医療の連携</p>	講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>○医療との連携は講義動画を作成する</li> <li>○教育や行政、家族との連携についての内容も検討する</li> </ul>
60	<p>この研修の意義</p> <p>①-行動障害と虐待防止</p>	講義	
30	実践報告	講義	

### 【実践研修】

時間	プログラム	形態	教材づくりの方向性
60	<p>支援を組み立てるための基本</p> <p>①-支援を組み立てるための基本的な流れ</p> <p>②-障害特性と行動についての再確認</p>	講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的に同じ内容・スライドとする</li> <li>○内容の量について検討する</li> </ul>
60	<p>アセスメントの方法</p> <p>①-具体的なアセスメントの方法</p>	講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的に同じ内容・スライドとする</li> <li>○統一した支援の必要性の内容を検討する</li> <li>○社会参加の内容を検討する</li> <li>○講義、演習のレベルや量について検討する</li> <li>○ストレングスやリフレーミングの説明方法を検討する</li> <li>○新しい映像を使用する</li> <li>○新しい映像との整合性を取る</li> </ul>

90	アセスメントの方法 ②-障害特性に基づくアセスメント	演習	
150	支援手順書の作成 ①-アセスメントに基づく支援手順書の作成 (1) (2)	演習	○基本的に同じ内容・スライドとする ○講義・演習のレベルや量を検討する ○ストラテジーシート (ABA) の内容の取扱いについて検討する ○新しい映像を使用する ○新しい映像との整合性を取る
120	記録の分析と支援手順書の修正 ①-記録の方法 ②-記録の分析と支援手順書の修正	講義 演習	○基本的に同じ内容・スライドとする ○講義・演習のレベルや量を検討する ○新しい映像を使用する ○新しい映像との整合性を取る ○ワークシートについて検討する
60	組織的なアプローチ ①-組織的なアプローチの重要性	講義	○受講者の立場やレベルに合わせた内容となるように検討する
60	組織的なアプローチ ②-実践報告	講義	
60	行動障害と虐待防止	講義	
60	行動障害のある人の家族の想い	講義	○家族の想いの講義は継続する ○基礎研修に移動

### 【特性確認シート】

- 研修全体を通して特性確認シートを使用する
- 各講義などとの整合性を取る
- 特性確認シートの構成(行動→特性→支援のアイデア)はそのままとする
- 情報量(文字数)を減らしてより簡素化する
- ステップごとのシートを作成する  
→強度行動障害支援者養成研修用(簡易版)、フォローアップ(アドバンス)研修用

#### (4)モデル研修の実施による教材の効果測定

作成した教材を使用したモデル研修を実施し、アンケートにおいて教材の効果測定を行った。

##### ①開催概要

###### 【基礎研修】

日程:2020年2月3日(月)～4日(火)

会場:ピアザ淡海 203 会議室(滋賀県大津市におの浜 1-1-20)

参加人数:38名

###### 【実践研修】

日程:2020年2月5日(水)～6日(木)

会場:びわ湖大津プリンスホテル「伊吹」(滋賀県大津市におの浜 4-7-7)

参加人数:33名

###### 【受講者について】

全国で強度行動障害支援者養成研修に関わる人を対象にモデル研修の案内を配布した上で、申し込みを受け付けた者

###### ※受講者属性

・障害福祉従事年数:平均 14.07 年

(10年未満:11名、10年以上20年未満:15名、20年以上:12名)

・受講者 38名中、2019年6月のぞみの園主催指導者研修受講者:16名

②実施カリキュラム表

【基礎研修】1日目

時間		内容		講師(敬称略)	
9:30～		受付			
9:50～		開会・研修のねらい			
10:00 ～ 11:00	60 分	強度行動障害の理解 ①-強度行動障害の状態 ②-行動障害が起きる理由 ③-支援の基本的な考え方	強度行動障害の状態・その後のプロセスを知る、行動障害のサイクル、行動は学習の結果である(未学習・誤学習)、気づかれにくい障害特性(冰山モデルの考え方)、問題性の理解(場面、相手、将来)、行動障害のメカニズム、作られる障害=作ってはいけない、児童期の予防の視点、ライフステージ、合理的配慮、強度行動障害支援の意義	講義・映像	藤井 亘 (NPO 法人みらい)
11:00 ～ 12:00	60 分	強度行動障害の理解 ⑤-障害特性の理解	自閉スペクトラム症の人とは(イメージ)、自閉スペクトラム症の特性、コミュニケーション場面の留意点(理解、表出の両面)	講義・映像	加藤 潔 (国立障害者リハビリテーションセンター)
	45	昼休み			
12:45 ～ 14:45	120 分	強度行動障害の理解 ④-困っていることの体験	本人が困っていることの疑似体験、生活のしづらさ	演習	加藤 潔 (国立障害者リハビリテーションセンター)
	15	休憩			

15:00 ～ 16:30	90 分	支援のアイデア ①-1・2 障害特性に基づいた 支援	受容コミュニケーションと表 出性コミュニケーション、構 造化の意義と方法、好事例 紹介	講 義 ・ 映 像	神田 宏 (横浜市発達 障害者支援セ ンター)
	15	休憩			
16:45 ～ 17:15	30 分	この研修の意義 ②-家族の気持ち	当事者と家族のニーズを知 る、保護者の気持ち	講 義	小島幸子 (全国手をつな ぐ育成会連合 会)
閉会					

### 【基礎研修】2日目

時間		内容		講師
9:30～		受付		
10:00 ～ 11:00	60 分	基本的な情報収集 ①-1・2-行動を見る視点	モデル事例、行動でとらえ る、アセスメント(プロフィール・直接・間接)、行動を具 体化する、行動観察記録を 取る	演 習 ・ 映 像  大友愛美 (NPO 法人ノー マライゼーショ ンサポートセン ターこころりん く東川)
11:00 ～ 12:30	90 分	基本的な情報収集 ②-行動を記録する体験	行動を具体化する、行動観 察記録を取る、冰山モデル で整理する	演 習 ・ 映 像  大友愛美 (NPO 法人ノー マライゼーショ ンサポートセン ターこころりん く東川)
	45	昼休み		

13:15 ～ 14:15	60 分	チームプレイの基本 ①-チームプレイの必要性	チームアプローチ、職場内での連携の必要性、医療・教育・家庭との連携の基礎知識、手順書に沿った支援を行うことの意味を理解する	講義	山根和史 (社会福祉法人北摂杉の子会)
14:15 ～ 15:15	60 分	チームプレイの基本 ②-支援手順書に基づく支援の体験	支援手順書に沿った支援を行う	演習・映像	山根和史 (社会福祉法人北摂杉の子会)
	15	休憩			
15:30 ～ 16:30	60 分	この研修の意義 ①-行動障害と虐待防止	行動障害と虐待の関連性、身体拘束について、職場の理解を得る、メンタルヘルスに留意する	講義	片桐公彦 (厚生労働省)
16:30 ～ 17:00	30 分	実践報告	支援実施について実践報告、関係者からのメッセージ	講義	竹矢 恒 (社会福祉法人同愛会)
閉会					

【実践研修】1日目

時間		内容			講師
9:30～		受付			
9:50～		開会・研修のねらい			
10:00 ～ 12:00	120 分	<p>支援を組み立てるための基本</p> <p>①-支援を組み立てるための基本的な流れ</p> <p>②-障害特性と行動についての再確認</p>	<p>支援手順書の意義、PDCA サイクル、アセスメント→プランニング(支援手順書)→支援の実施→記録(再アセスメント)→再プランニング(支援手順書の修正)の流れ、チームアプローチの重要性、支援手順書の役割と支援の統一、障害特性の再確認、行動の意味を理解する</p>	講義	川西大吾 (株式会社トモニー)
	60	昼休み			
13:00 ～ 14:00	60 分	<p>アセスメントの方法</p> <p>①-具体的なアセスメントの方法</p>	<p>プロフィール情報の集め方、間接的アセスメント、直接的アセスメント、障害特性に基づくアセスメントの重要性</p>	演習・映像	福島龍三郎 (NPO 法人全国地域生活支援ネットワーク)

14:00 ～ 16:00	120 分	アセスメントの方法 ②-障害特性に基づくアセスメント	障害特性に基づくアセスメント、直接的アセスメント(行動を決める)、直接的アセスメント(指標を決める)、環境のアセスメント、氷山モデルの理解と作成	演習・映像	福島龍三郎 (NPO 法人全国地域生活支援ネットワーク)
16:00 ～ 17:00	60 分	手順書の作成 ①-アセスメントに基づく支援手順書の作成(1)	構造化の考え方と方法、強みや好みを活かす視点、支援手順書の作成方法	演習・映像	福島龍三郎 (NPO 法人全国地域生活支援ネットワーク)
閉会					

### 【実践研修】2日目

時間	内容			講師	
9:15～	受付				
9:30 ～ 11:30	120 分	手順書の作成 ②-アセスメントに基づく支援手順書の作成(2)	構造化の考え方と方法、強みや好みを活かす視点、支援手順書の作成方法	演習・映像 福島龍三郎 (NPO 法人全国地域生活支援ネットワーク)	
	45	昼休み			
12:15 ～ 13:45	90 分	記録の分析と支援手順書の修正 ①-記録の方法 ②-記録の分析と支援手順書の修正	行動の記録の方法、記録の整理と分析、再アセスメントと手順書の修正	演習・映像 福島龍三郎 (NPO 法人全国地域生活支援ネットワーク)	
	15	休憩			

14:00 ～ 15:00	60 分	組織的なアプローチ ①-組織的なアプローチの重要性	支援現場をバック アップする管理職 と共同することの 重要性、ケース検 討会の有効性と実 施プロセス、支援 者ケアの大切さ、 地域で支えていく	講 義	本多公恵 (社会福祉法 人滝乃川学 園)
15:00 ～ 15:30	30 分	組織的なアプローチ ②-実践報告	支援の組み立て から実施までの実 践報告(生活場 面、日中活動場 面、外出場面)	講 義	大田優子 (NPO 法人生 活支援センタ ーわたぼうし)
15:30 ～ 16:30	60 分	関係機関との連携-関係機関との連 携方法	福祉と医療の連 携、福祉と教育の 連携、家庭との連 携	演 習	會田千重 (国立病院機 構肥前精神 医療センタ ー)
閉会					

### ③効果測定アンケート

#### ■目的

今回実施したモデル研修における受講者の研修理解度及び教材の分かりやすさについて評価を行うことを目的として実施した。

#### ■対象

モデル研修受講者

#### ■方法

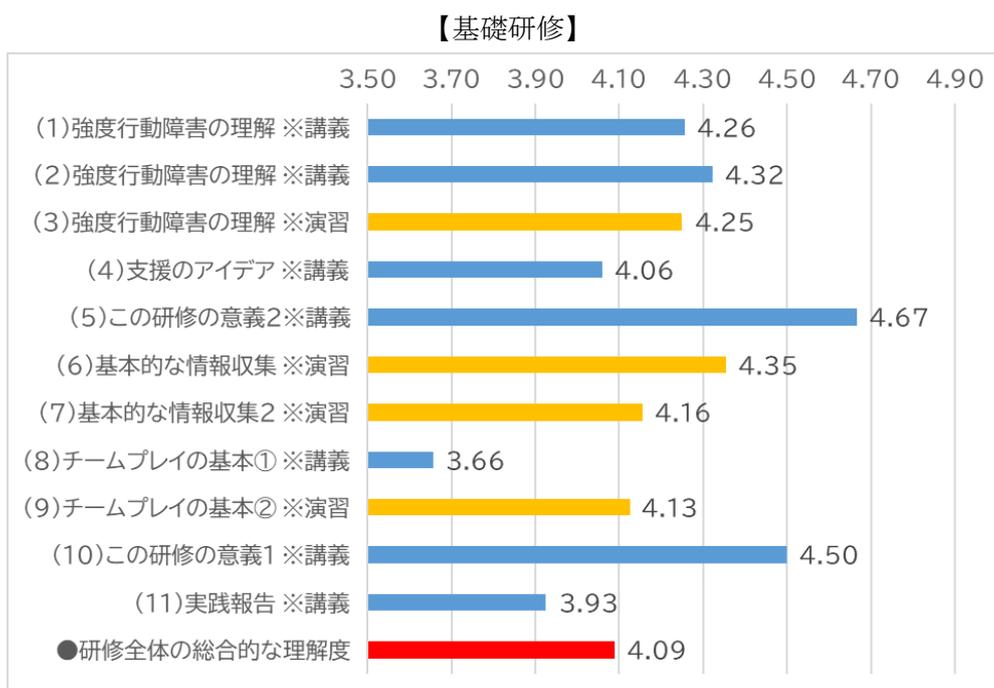
基礎研修、実践研修それぞれの初日開始時に受講者全員にアンケート用紙を配布し、各講義、演習終了毎にアンケート用紙に評価記入を依頼。全研修終了後に受講者より直接回収を行った。

#### ■結果

- ・基礎研修:回答数 36 件(回収率:94.7%)
- ・実践研修:回答数 33 件(回収率:100%)

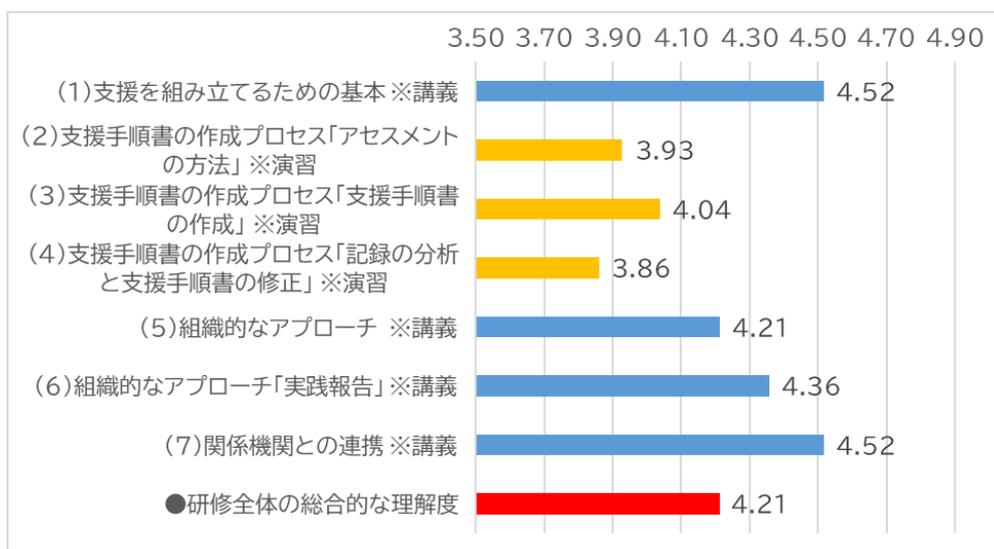
#### 1)研修の全体的な理解度

基礎研修・実践研修それぞれの講義・演習項目について、「1.全く分からない」「2. やや分からない」「3.普通」「4.まあ分かった」「5.かなり分かった」の5段階で理解度を尋ねたところ、下記のような回答が得られた。



研修全体の総合的な理解度は 4.09pt と、研修としては良好な結果を得た。また、各項目別に見ると、(5)この研修の意義 2「家族の気持ち」(4.67pt)が最も高く、次いで(10)この研修の意義1「行動障害と虐待防止」(4.50pt)、(6)基本的な情報収集(4.35pt)、(2)強度行動障害の理解(講義)(4.32pt)が続いた。6～8月に実施したアンケート結果との比較においては、全体的に演習に関する理解度が向上している点に注目出来る。

### 【実践研修】



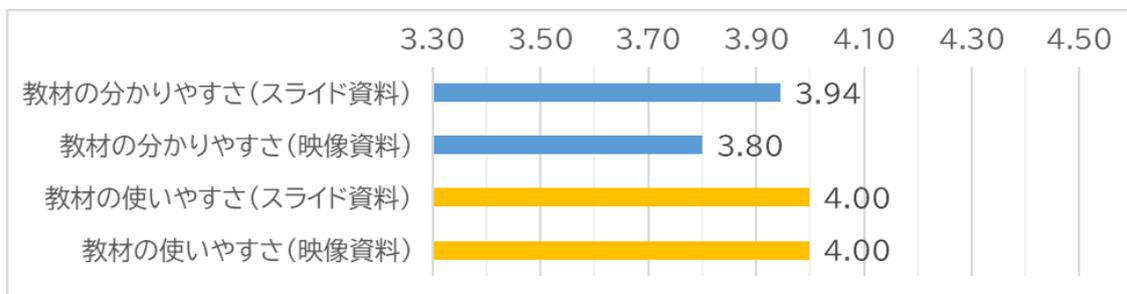
研修全体の総合的な理解度は 4.21pt と、研修としては良好な結果を得た。各項目別に見ると、(1) 支援を組み立てるための基本(4.52pt)と(7)関係機関との連携(4.52pt)が最も高く、次いで(6)組織的なアプローチ「実践報告」(4.36pt)、(5)組織的なアプローチ(講義)(4.21pt)、(3)支援手順書の作成プロセス「支援手順書の作成」(4.04pt)が続いた。6～8月に実施したアンケートの結果と比すと、講義項目に関する理解度が全体的に向上している。

### 2)教材の分かりやすさ(受講生視点)・使いやすさ(講師視点)に対する評価

各研修の講義・演習のスライド資料・映像資料・ワークシートについて、それぞれ「1.分かりにくい」「2.やや分かりにくい」「3.普通」「4.まあ分かりやすかった」「5.かなり分かりやすかった」の5段階で尋ねたところ、次の通り回答が得られた。

## 【基礎研修】

### ア) 強度行動障害の理解「強度行動障害の状態」「行動障害が起きる理由」「支援の基本的な考え方」(講義)



主な意見(自由回答抜粋)

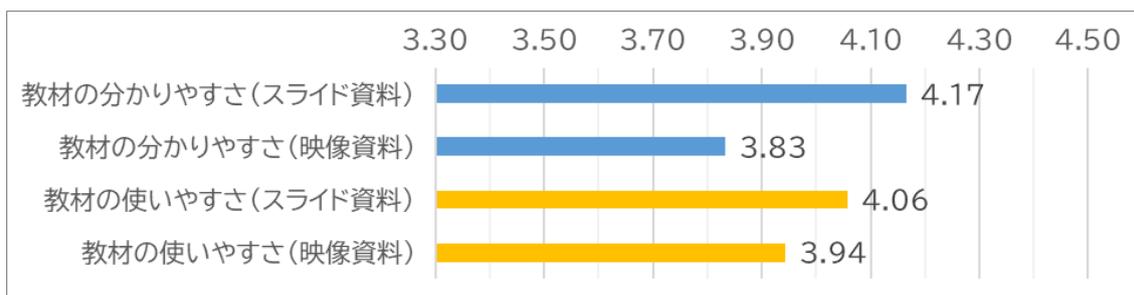
#### ≪スライド資料≫

- 基本的なことをまとめてあって初めて聞く人、経験者にも再確認になる
- 話す内容がはっきり書かれているので、使いやすい
- 予防的支援、社会参加への支援の大切さがポイントであると伝えやすくなっている
- △「同一性保持」「合理的配慮」などの言葉に説明が必要 △読み上げるだけのものになりやすい
- △スライドは見やすいが、わからない用語が多く混乱してしまうのではないかと思った
- △導入部分だとして、もう少し理念的な視点というか、行動障害は作られたものだというのを強調できると良い
- △口頭の説明が多くなるため、口頭の説明で大切なことはスライドに入れたほうがわかりやすい

#### ≪映像資料≫

- 教材的にはとても使いやすいと感じた ○支援者の声があるので、見ていて共感しやすい
- どうして良くなったのかが最後の職員さんの話でわかりやすかった
- △もう少し説明があつたらわかりやすい △強度行動障害であることがどういう状態なのか分かりづらい
- △「支援者に聞きました」の所から支援者の言葉、映像の中に字幕があると理解しやすい
- △最後に VTR のポイントのスライドがあるといいのでは

### イ) 強度行動障害の理解「障害特性の理解」(講義)



主な意見(自由回答抜粋)

《スライド資料》

- 具体的なエピソードが出るので、理解しやすかった ○3つ組と感覚に絞って使いやすいように思う
- 特性の理解図や、脳のとらえ方の違いはわかりやすかった ○ポイントがコンパクトにおさえられていた
- △0ヶ月だとして○○の難しさがあるの像をイメージしにくいと思うので文字だけでどこまで理解できるのか。それぞれの特性を伝えるときに”例えば”をどれだけ伝えられるかが0ヶ月の人にはポイントになると思う
- △特性の実例などがあるとわかりやすいのかなと感じた
- △資料にないスライドや特性シートの説明が難しそうと感じた

《映像資料》

- 特性との関連が示されていたのが分かりやすかった ○最初の講義と連動して分かりやすかった
- 障害特性を字幕にしているのがわかりやすい ○特性ごとに映像が見れたのでわかりやすかった
- △特性の解説がやや説明しにくい △字幕(白字)が見えづらいことがあった

#### ウ)強度行動障害の理解(演習)



主な意見(自由回答抜粋)

《スライド資料》

- 今どこまで進んでいるのか視覚的に分かりやすいので2時間が負担に感じなくて良い
- 調整がきくのでよかった。演習の多さも良い ○振り返りがとても大事だと感じた
- 2時間コマなので、時間配分が難しいが、最後の発表で調整する工夫がやりやすい
- 体験ごとにどんな特性を感じて欲しかったのかスライドがあり確認しやすいと思う
- △講義とのつながりが自分で見つけにくい

《ワークシート》

- ワークシートが少なくてもよい ○準備しやすい
- △1つ1つを振り返れる方が意図も伝わりやすいしグループで共有しやすい(グループワークに慣れてない人が多いと思う) △ワークに参加させるのが難しいと思った
- △ワークで伝えたいことをきちんと説明することをうまくできるか心配

《演習グッズ》

○4つの特性を体験しやすい ○安価で代用しやすい ○準備が簡単で良い

△感覚の特異性は伝え方の工夫が必要と感じた

△あくまでも体験、当事者のしんどさはもっと体験時間は短く、振り返り部分にをかけて、障害当事者の理解(見立て部分)ができるよう考えていく必要があると思う

エ) 支援のアイデア(講義)



主な意見(自由回答抜粋)

《スライド資料》

○特性と特性シートに基づき、整理されておりわかりやすい ○構造化の説明がとてもわかりやすかった

○スライドで説明されたことを映像で見せてもらいよくわかった

○具体的に構造化の必要性、効果がわかりやすく伝えやすいと思った

△扱っている内容自体が難しいと感じた △具体的な例などもう少し実例なども含めるとわかりやすい

△イラスト等を多用したほうがわかりやすい

《映像資料》

○言葉だけでわかりづらい部分を映像でフォローできていた ○色々なアイテムの紹介で理解しやすい

○具体的な例と動画で使い方が示されておりわかりやすかった ○特性に応じた映像はとてもわかりやすかった

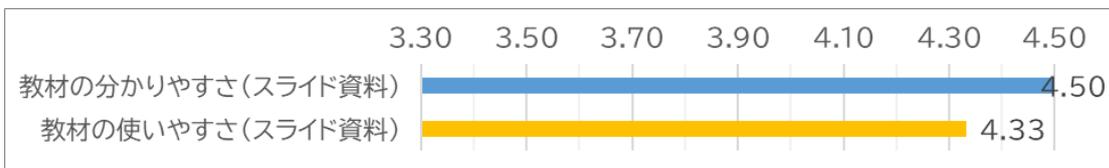
○構造化の工夫によりうまくいくことが映像から読み取ることができた

○その都度説明が入る事で伝えるべき所が明確に伝えやすいと思った

△自分達が使っている道具ではないので質問をされた場合に困る

△映像によっては何を意図しているか分かりにくいものもあるなど思えた

オ) この研修の意義2「家族の気持ち」(講義)



主な意見(自由回答抜粋)

《スライド資料》

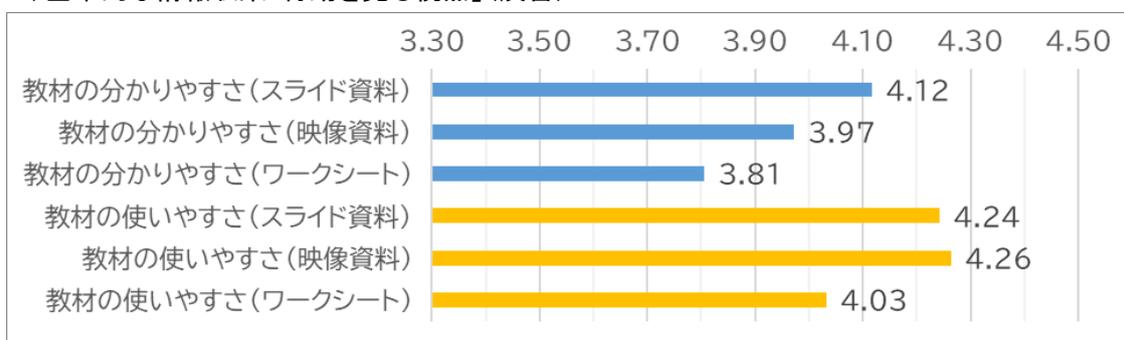
○家族、親がどう思っているのか率直な言葉で良かった

○保護者の方の講義はいつも本当に心に響きます。基礎研に入って良かったと思います

△伝達研修では伝わらないこともあるのでは。各地域で他の方を選ぶこともかなり難しい

△親でないで、このスライドを使って講義をするのは難しいと思う。各自治体の研修でも当事者やご家族の話が聞けるようなシステムがあるとうれしい

### カ) 基本的な情報収集「行動を見る視点」(演習)



主な意見(自由回答抜粋)

《スライド資料》

○前回と比べ理解しやすくなった ○チェックした特性の本人の具体的な行動の書き出しが限定され分かりやすい

○1つ目の説明を丁寧にすれば後はスムーズに進行できると思う ○内容がとてもシンプルで伝えやすい

△スライドが単調なので、ワークの部分はスライド内にワークと示すなどした方が、メリハリがついて進めやすい

△行動を抜き出す、行動をとらえる考え方が少ないように感じる。

《映像資料》

○基本情報とリンクしてる部分がある ○1つ1つの特性に切り分けた映像は分かりやすかった

○「これを見てほしい」という意図がわかりやすい ○行動が分かりやすいので、特性の説明がしやすそう

○支援方法が明確に異なっていたので初めての人には分かりやすいと思う

《ワークシート》

○行動のどこに注目したらよいかわかりやすかった ○ワークのストレスが少なく苦手意識が小さい

○一つの行動と様々な特性が関連して理解しやすい ○考える所がしぼられていて使いやすい

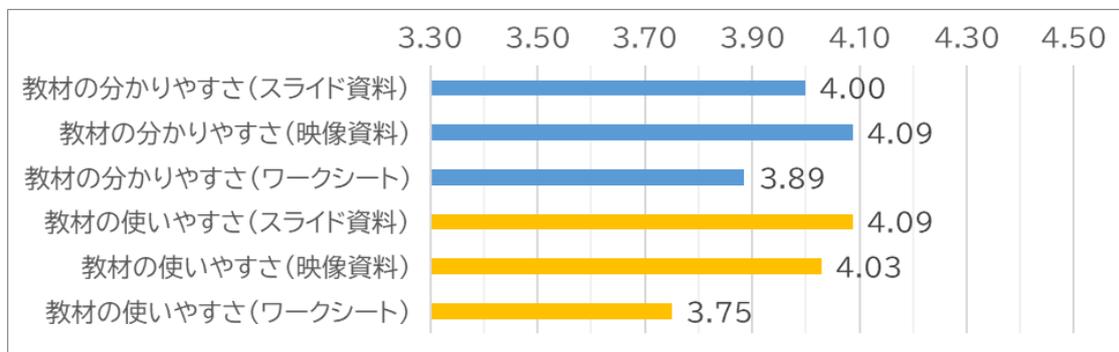
○A3の1枚ものより目で追いやさしい ○細分化されたので進行としては分かりやすくなったと思う

△基本情報からみる具体的な行動もワークに記入されており、分かりづらかった。映像のみで十分とくめると思った

△分かりやすいが、例文なのが所々で多く、もう少し自由な考え方ができてもよいのかなと感じた

△シートの名前がそれぞれ似ていて混乱するかもしれない

## キ)基本的な情報収集2「行動を記録する体験」(演習)



主な意見(自由回答抜粋)

《スライド資料》

- 埋まっている部分も多く、受講生の記入は少なくなった分、講師の説明が増えより丁寧に話す必要もあると思う
- 順序立っていてシンプルでわかりやすい ○行動の理由、アセスメントの視点を説明しやすい内容だった
- △PPT は使いやすい資料になっていた一方で研修資料が単調になってしまう

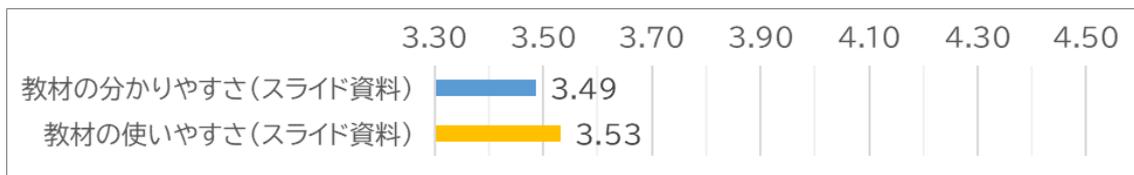
《映像資料》

- 映像は分かりやすかった ○その場面のみを見ることができるのでわかりやすい
- 映像は演習内容にそってわかりやすく作られていた
- △連動性(映像と資料)が難しい
- △解釈の説明が講師の力量にかかる部分がある。映像だけでわかるものが欲しい。

《ワークシート》

- 配布資料がわかりやすく分かれていて使いやすかった ○初任者に向けて各項目を絞ったのは良かった
- タネ明かしがあるので冰山モデルの作り方がわかりやすかった
- 配布するときに、講義中使いやすいように準備されていた
- 書き込むヒントが沢山あり新人には取り組みやすい
- △「ワークシート」と「配布資料」という文言になっているので統一してほしい
- △パワポと資料がマッチされていないところがあった

### ク) チームプレイの基本①(講義)

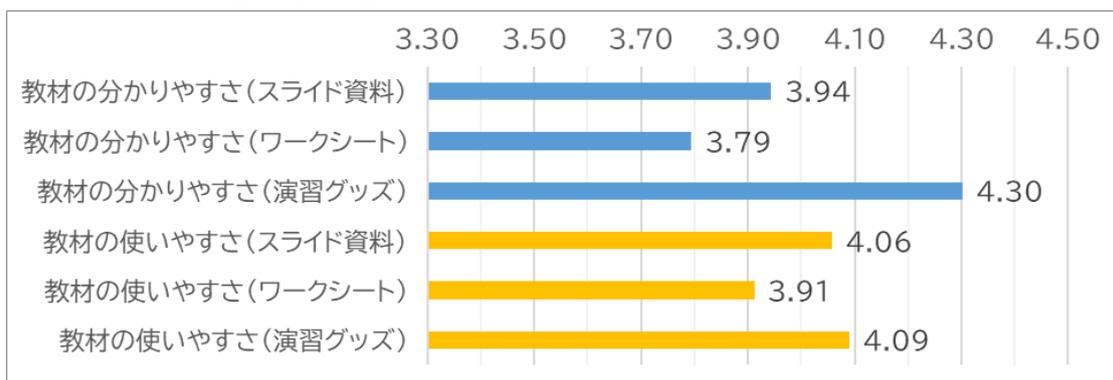


主な意見(自由回答抜粋)

《スライド資料》

- スライドが少ない分、意識して覚える部分が分かりやすい
- ライフステージイメージがもちやすいスライド資料だった
- △0年0ヶ月の人は支援手順書が何なのかそもそもわからない。サービス等利用計画や個別支援計画、手順書等の書式が入っているとイメージしやすいと思った
- △内容がシンプルで説明を増やすのは難しいなと感じた。30分程度のボリュームでよいと感じた

### ケ) チームプレイの基本②(演習)



主な意見(自由回答抜粋)

《スライド資料》

- ロールプレイについて、ビデオ+モデルがあったため、どのようにやればいいのかわかりやすいと思った
- 午前中に使った動画での演習だったので分かりやすかった
- 受講者の演技するポイントが少なく、デモにあまりプレッシャーを感じさせずに取り組める内容
- スケジュールと活動カードなど、言葉の定義を整理されており分かりやすかった
- △気付きや反省点の振り返りをし、他班の意見も聞きたい
- △全体的に時間が足りない
- △ロールプレイを全員全役割したが、慣れてくると段々といいかげんになってしまった

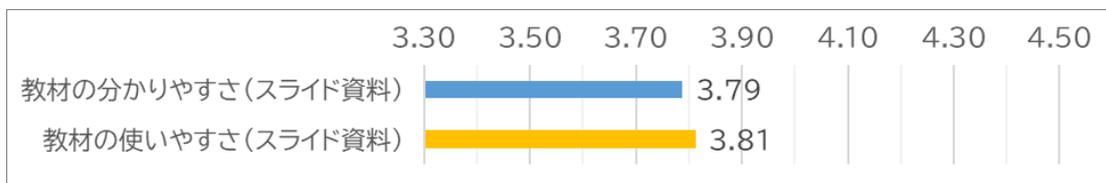
《ワークシート》

- 何をするのが理解しやすい
- △観察者の役割が少し分かりづらく記録をとることができなかった。短時間で手順書が理解出来るように工夫する必要があるのではないか。
- △記録部分に実際に何を書けば良いかわからなかった

### 《演習グッズ》

- 実際の使い方を演習で体験できた ○動画で出てきたグッズに近いものなのでイメージしやすい
  - 支援手順書に沿った成功体験をまずはやってみる初心者向けには分かりやすくて良い
  - 現場に戻ったあと、活かしやすいグッズだった
  - 具体物があることで今まで使ったことがない人もどんな物かわかるので良いと思った
  - 安価で準備できるものばかりなので取り組みやすい
- △手順書(スケジュールボード)の作成が大変な気がする

### コ)この研修の意義1「行動障害と虐待防止」(講義)

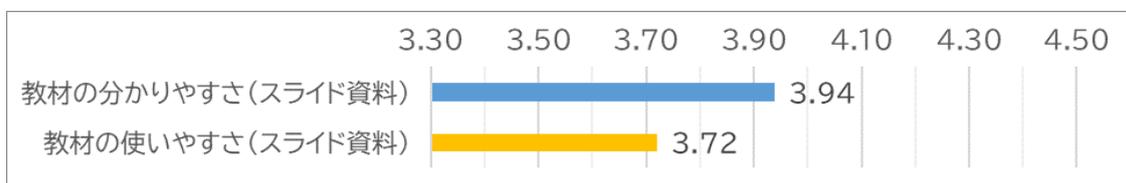


主な意見(自由回答抜粋)

#### 《スライド資料》

- 事例等々があり、分かりやすかったのでは(事例を多く取り入れたことが好ましい)
  - 時間内での説明で早かったのですが伝えたいポイントはよく分かった。支援者の立場で分かりやすい
  - 今まで専門知識が難しそうに思っていたが、説明できそうな気がした
  - 根拠のある数字とデータを示されているので伝えやすい。このデータ(スライド)を参加者に共有していただければ幸いです
- △0年0ヶ月と考えるとあまりにボリュームが多すぎる。初任者をイメージすると要点を絞って活用が良いと思う
- △資料の文字が小さい △情報量が多く、行動障害に特化したものがあるとわかりやすい
- △大事なポイントがまとまったスライドがあるとわかりやすい

### サ)実践報告(講義)



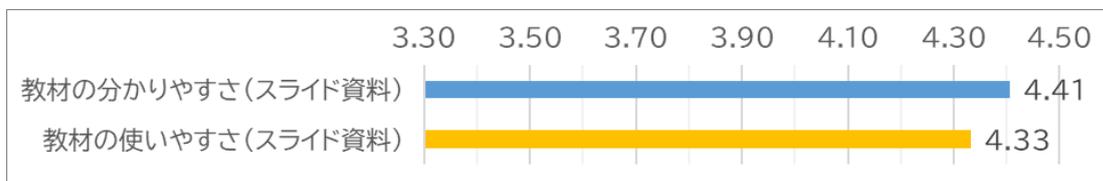
主な意見(自由回答抜粋)

#### 《スライド資料》

- 課題に多角的アプローチしており参考になった
  - 利用者の課題の前に支援者の課題に注目している点に共感
- △必要性は理解できるが、少し難しく感じた

## 【実践研修】

### シ) 支援を組み立てるための基本(講義)

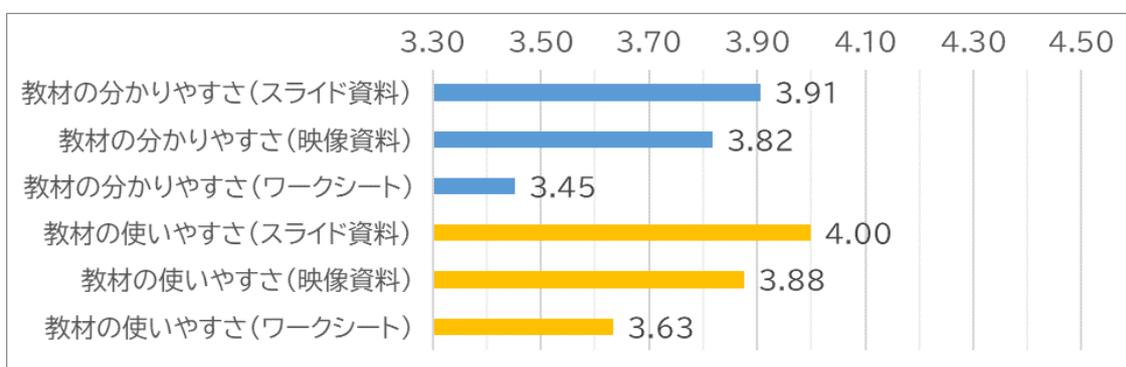


主な意見(自由回答抜粋)

《スライド資料》

- スライド資料を補足する説明(事例)がたくさんありわかりやすかったです
- 年0ヶ月の方が120分続けた講義で集中が続く心配だがアイスブレイクのようなワークがあって良かった
- かなりやわらかく内容が変わったと思います
- 基礎研修で使われていたスライドを使用されていたので振り返りやすい
- 基礎研修の最後にもあっていいのではないかと思うぐらい(基礎研修が学びっぱなしで終わるので結局何を学んだか整理できないままになってしまう)
- △演習のポイントが細かく書いているが何の復習ポイントなのか記入しておいた方がわかりやすい
- △時間配分が難しく感じた。流れの説明のときに配分があってもよかった。

### ス) 支援手順書の作成プロセス「アセスメントの方法」(演習)



主な意見(自由回答抜粋)

《スライド資料》

- 予防モデルの内容がとてもわかりやすくなっていると思いました ○初めての人でも理解しやすい
- 説明はだいぶしやすいもの、伝えやすいものになっていた ○研修の流れはとてもわかりやすくなっている
- 確認するところの提示が明確になっており、使いやすい印象を受けた
- △実際に説明する際にチェックをつけたりする際にアニメーションなどを使用するとわかりやすいと思う
- △文字が小さくて見えない所あり △スライドとシートの使い方伝え方の整理が必要
- △基礎研修では一貫してアセスメントという言葉を用いず演習の大枠として同じことをやるのに突然アセスメントと出しており違和感がある

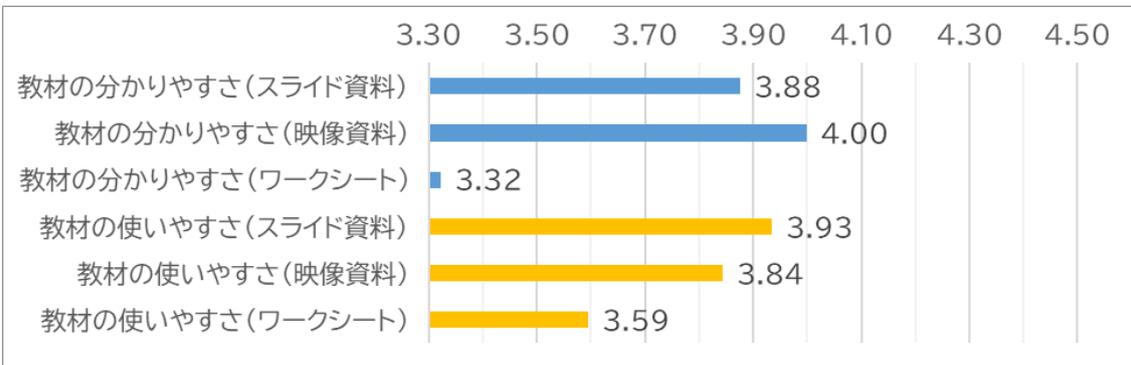
《映像資料》

- ポイントにそって俳優が演じ、答えが導きやすくてよかった ○特性を基本で表されているためわかりやすい
- △自傷場面を何度も見聞きするのは気持ち的にぎわつしてしまう人が多くなると思うのでそのフォローをどうするかも大事
- △映像自体は良いですが、田中さんがいる場所や作業の場所の説明があると分かりやすいと感じた

《ワークシート》

- 資料の行き来が少なくてよかった ○特性シートが0年0ヶ月ベースの方にはわかりやすくなったと思う
- 環境シートや、ストレングスシートなど新しく増えたものがわかりやすく扱いやすかった
- チェックシートを活用して氷山モデルを作るのがわかりやすい ○簡素化が図られていてよかった
- 氷山モデル作成の説明がチェックシートを活用することで伝えやすいと思った
- 特性の背景を考えるシートは頭の中を見える化する&本人の立場にたつ視点もてるのでとても良いと思う
- △行動チェックシートと特性シートが分かれていることが少し使いづらさを感じた △字が小さい
- △行動の背景を考えるシートの本人の具体的な行動の部分について、短くどのようにまとめるかが難しかった
- △「シート説明→行動を書き出す→チェックを入れる」をやっていく事で理解しやすいが、それでも工程が増えると、追いつけない人がいるかもしれない、その際のフォローどうするか △受講者にとっては多すぎると感じた

セ) 支援手順書の作成プロセス「支援手順書の作成」(演習)



主な意見(自由回答抜粋)

《スライド資料》

- 順を追って確認できるので理解しやすい
- 少し時間的に余裕を感じた為、ワークの振り返りや手順書の重要性を伝えやすい
- △設定をざっくりしてあるので少し経験がある人が取り組むと逆にグループワークで混乱しそう、映像後初めて支援する時なのか、作業時間はどのくらいか、等。

《映像資料》

- 全て通して見れてよかった ○ワークシートに取り組みやすい映像だった
- 特性は分かりやすくなっていた。講義の中であったように、続いているとより分かりやすい部分があると思いました

《ワークシート》

- 環境を拾いあげやすかった ○基本情報は箇条書きにしてあり分かりやすいと思った
- 【「▲▲」の「■■」かもしれない】のシートは考え方の整理ができてとても良いと思った
- ワークが細かく入っていた為、その都度確認できた
- △行動を考えるシートの本人の具体的な行動について、初任の人には難しいかもしれない
- △氷山モデルとチェックシートの関連性(必要性)は理解できるが活用のしかたが少し分かりにくかった
- △「背景となる特性」→「本人の具体的な行動」の作業でつまづく受講者が多い、説明の言語化ができない
- △シートごとにマークがあるとより分かりやすい
- △行動の背景を考えるシートを使用する際、自傷に至るまでの本人の困り感を感じられるよう、もう少し説明があってもよい

ソ) 支援手順書の作成プロセス「記録の分析と支援手順書の修正」(演習)



主な意見(自由回答抜粋)

《スライド資料》

- 再アセスメントと再構造化について実際にプロセスを追って演習できるのがうれしい
- アセスメント、手順書、評価、修正、流れの大きさは伝わりやすかった
- ポイントとして、ブラッシュアップを続けていくことを常に言われていて、忘れず伝えなければと思いました

《映像資料》

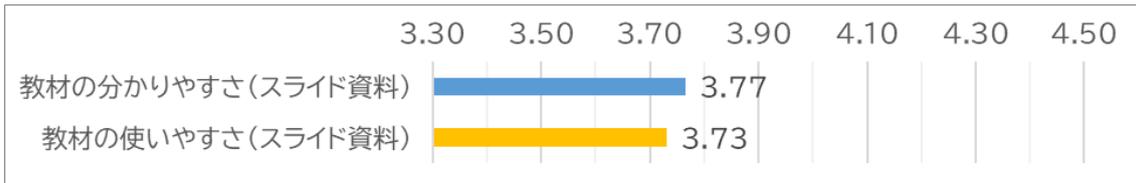
- 演者ではあるが「その後の動き」がわかってよい ○あえて失敗してるのでわかりやすい
- △細かな部分が分かりにくく、演習に活かしにくかった
- △スキル評価の動画のときに解説すべき点(注目ポイント)を解説するほうがいい
- △スキルのアセスメント(意図したインフォーマルアセスメント)の映像がとてもよかった。ただ支援の振り返りのワークを終えた後に映像を見てもらうほうが演習は進めやすい

《ワークシート》

○最後に全て書き込まれたワークシートを配布され見ることでまとめできてよかった

△専門用語が時折出てくるが簡単な説明が必要 △うまく活用したり理解するまでに時間がかかってしまった

#### タ) 組織的なアプローチ(講義)



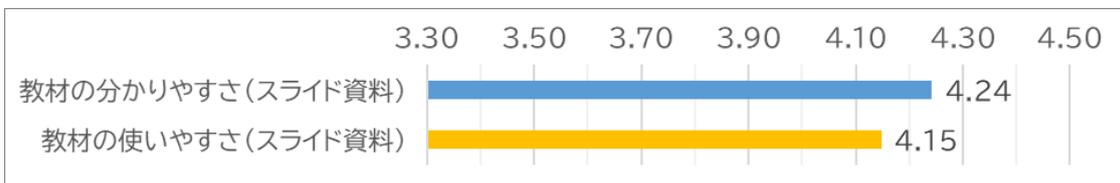
主な意見(自由回答抜粋)

《スライド資料》

○組織間での統一した支援の大切さが分かった

△各地域でどのようにアレンジしていくとよいかアドバイスが欲しかった

#### チ) 組織的なアプローチ「実践報告」(講義)



主な意見(自由回答抜粋)

《スライド資料》

○支援の実践もとても参考になったが、事業所全体の変化もきくことが出来とてもよかった

○様々な環境が本人や支援に影響していくのだなと大切さを再認識できた

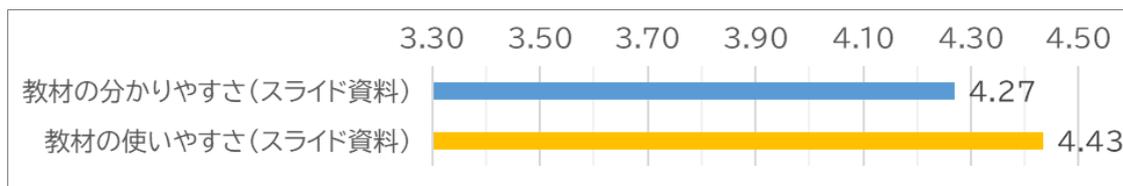
○動画や写真があり、かなりわかりやすかった

○事例のビフォー・アフターというよりチーム支援の部分が強調されるのは受講者のモチベーションになって良い

○フォローアップ研修や各事業所での実践の支援の必要性を改めて感じました

△もう少し他職種連携か、実践(アプローチ)に特化して聞きたかった

## ツ)関係機関との連携(演習)



主な意見(自由回答抜粋)

《スライド資料》

○医療機関が何を考えて支援しているのかが分かりやすい ○連携の必要性が視覚的に理解できる

○このまま映像で使用していいなら分かりやすい

△連携の意見交換の意図がよく分からなかった △経験が少ないとイメージできない部分が多かったように感じる

△20分の情報交換は各地域の話し合いができてよかったが、0年0ヶ月は何の話をしてよいかわからないのでは。

### 3)まとめ・考察

2019年度強度行動障害支援者養成研修(指導者研修)の受講者とは対照が異なり、指導者研修受講者を対象としたアンケートと一概に比較はできないが、モデル研修の受講者の属性として経験年数が長い受講者が多いことを考慮すると、本事業において作成(修正)した教材を使用したモデル研修に対して概ね良好な評価を得ることができた。また、一部指導者研修とモデル研修の両方を受講した受講者の自由記述において「分かりやすくなった」との意見が見られ、教材について改善の効果があつたことが見受けられる。併せて、細かい単語(専門用語)の使い方に対する意見や、新しいスライド、ワークシートの使い方の分かりやすい説明に対する意見など、教材の細部や研修の進め方への指摘もあり、今後の教材と研修の内容の改善につながる情報を得ることができた。

### 3. 本研究の成果と今後の課題

#### (1) これまでの流れ

強度行動障害支援者養成研修は平成 25 年度より「基礎研修」が実施され、平成 26 年度より「実践研修」が実施されるようになったが、この間、研修の受講が各種加算やサービス従事の要件となる制度的な位置づけもあり、強度行動障害支援について全国で多くの支援者が学ぶ機会を提供するに至った。それまで一部の機関や支援者による献身的な取り組みで行われていた強度行動障害支援が、成人期の支援から児童期の支援まで、また、居住系のサービスから通所系のサービスまで、幅広い範囲の支援者に、その意義と支援の根拠、支援の具体的な方法を伝える機会ができたことは画期的なことであり、確実に強度行動障害支援への関心と実際の取り組みの広がりにつながっている。

一方、研修の内容については、基礎研修2日間(12時間)、実践研修2日間(12時間)という限られた時間の研修において何をどのように伝えるのかについて議論が重ねられており、平成30年度障害者総合福祉推進事業「強度行動障害支援者養成研修の効果的な研修カリキュラム及び運営マニュアルの作成に関する研究」において、受講者が必要なことを学びやすくするためにストーリー性のある新しいカリキュラムが作成された。

#### (2) 本研究の成果

本研究は、新しく作成されたカリキュラムに沿った研修プログラムの効果的な実施のための教材開発を目指して実施したが、具体的には研修実施に当たって使用する「スライド資料」「映像資料」「ワークシート」について、既存の資料を基に、より効果的な研修成果を得られるように資料の開発・改善を行った。

本研究において、アンケート調査やヒアリング調査の実施、検討委員による教材検討の過程のなかで、強度行動障害支援者養成研修が強度行動障害支援の入り口としての研修であり、支援現場での経験が浅い支援者でも理解できる研修内容とするという位置づけが明確になった。

その上で、経験の浅い支援者を対象として研修効果をあげるための教材として、できるだけ分かりやすくすることを目指して教材作りを進めてきたが、各資料とも目指していた方向で作成することができ、モデル研修における効果測定においても一定の成果を確認することができた。

#### (3) 他の研究事業との連動

地域における強度行動障害支援の全体を考えたとき、強度行動障害支援者養成研修は支援者が強度行動障害支援に関わるきっかけを作る入り口の研修としての位置づけであるが、実際に地域において強度行動障害が現れている人を支援し、また、強度行動障害を予防する支援をしてい

くためには、強度行動障害支援者養成研修だけでは不十分だと考えられる。本研究と同じく2019年度障害者総合福祉推進事業において「強度行動障害児者に携わる者に対する体系的な支援スキルの向上及びスーパーバイズ等に関する研究」が実施されているが、地域で強度行動障害に関わる支援者の育成や支援体系を構築していくためには、それらの研究の内容と連動して強度行動障害支援の仕組みを整理・整備していく必要がある。

#### (4)これからの課題

強度行動障害が現れている人たちへの支援は、多くの地域で支援者や受け皿が少なく、その人たちの行き場がないことが課題となっている。その課題を解決していく方法のひとつは、強度行動障害について知り、実践する支援者を地域に増やしていくことである。そのためには、地域に強度行動障害に関わる支援者を養成していく体系的な仕組みが必要であるが、強度行動障害支援者養成研修はその入り口となる研修として、これからも重要な役割を果たすと考えられる。

入り口となる研修に求められるものは、まず強度行動障害支援への出会いで躓かないこと、つまり、難しいという印象を持つのではなく、支援に興味を持ってもらうことができる内容であることが重要である。その上で、強度行動障害支援者養成研修をきっかけとして、実際に強度行動障害支援に関わるようになり、更に上位の研修を受講してスキルアップを目指したいと思ってもらう必要がある。

そのためには、今後とも強度行動障害支援者養成研修における研修プログラムについて、必要なことをより分かりやすく伝える内容となるように改善していくことが必要であり、研修で使用される教材についても更に改良をしていくことが求められる。

本研究の成果が基となり、今後、強度行動障害支援者養成研修の更なる充実が図られることを期待したい。

## 4. 検討委員会等の実施状況

### (1) 検討委員会開催実績

回数	日時・会場	内容
第1回	[日時]2019年6月17日(月) 13:00-15:15 [会場]東京八重洲ホール中会議室101	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 今年度事業の進め方について</li> <li>■ 教材についてのアンケート及びヒアリングの内容・方法の検討</li> <li>■ 事業実施内容に関する意見交換</li> </ul>
第2回	[日時]2019年8月17日(日) 13:00-15:10 [会場]東京八重洲ホール中会議室101	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ アンケート結果報告及び意見交換</li> <li>■ ヒアリングの実施スケジュール確認</li> <li>■ 教材づくりの方向性について意見交換</li> <li>■ 映像資料の撮影候補の検討</li> </ul>
第3回	[日時]2019年12月8日(日) 15:00-17:00 [会場]東京八重洲ホール中会議室101	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ヒアリング結果報告及び意見交換</li> <li>■ 映像資料作成進捗報告及び内容の検討</li> <li>■ 研修資料作成に関する意見交換</li> <li>■ モデル研修の実施について</li> </ul>
第4回	[日時]2020年2月6日(木) 17:00-18:30 [会場]大津プリンスホテル「伊吹」	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ モデル研修の振り返り及び修正点の確認</li> <li>■ 映像資料に関する編集・追加等の検討</li> </ul>

### (2) 映像資料作成に係るスケジュール

回数	日時	内容
第1回	[日時]2019年8月12日(月)10:00-17:00 [参加]委員3名/事務局1名	打ち合わせ
第2回	[日時]2019年11月17日(日)13:00-18:00 [参加]委員3名/事務局1名	撮影現地打ち合わせ
第3回	[日時]2019年12月1日(日)7:00-16:00 [参加]委員3名/事務局1名	撮影
第4回	[日時]2019年12月2日(月)11:00-12:00 [参加]事務局1名	撮影
第5回	[日時]2019年12月8日(日)10:30-13:00	撮影現地打ち合わせ

	[参加]委員 2 名／事務局 1 名	
第 6 回	[日時]2020 年 1 月 12 日(日)14:00-18:00 [参加]委員 3 名／事務局 1 名	撮影現地打ち合わせ
第 7 回	[日時]2020 年 1 月 13 日(月)9:00-17:00 [参加]委員 3 名／事務局 1 名	撮影
第 8 回	[日時]2020 年 2 月 29 日(土)13:00-16:00 [参加]委員 2 名／事務局 1 名	撮影

### (3) 研修スライド資料・配布資料作成作業部会

回数	日時	内容
第 1 回	[日時]2020 年 1 月 7 日(月)11:30-16:00 [参加]委員 2 名／事務局 1 名	ワークシート内容に関する打ち合わせ
第 2 回	[日時]2020 年 1 月 27 日(月)10:00-16:00 [参加]委員 5 名／事務局 2 名	資料作成最終調整会議

## 5. 成果等の公表計画

本事業における成果物は、下記の 4 点である。

- ・映像資料
- ・研修用パワーポイント資料(2020 年 2 月モデル研修用)
- ・研修用ワークシート(2020 年 2 月モデル研修用)
- ・報告書(本書)

研修用パワーポイント資料、研修用ワークシート、成果報告書については、当法人のブログページ及び facebook にて公表する予定である。

以上